

平成 5 年度

# 帰国研修員フォローアップチーム報告書

■ 視聴覚コース ■

平成 6 年 3 月

国際協力事業団

沖縄国際センター

沖縄セ

J R

93 - 3

1  
5  
C  
ARY

国際協力事業団

28192

JICA LIBRARY



1121188151

28/82



## はじめに

開発途上国における教育訓練や各種普及活動において、視聴覚メディアは、有効な手段として我が国が実施するプロジェクトだけでなく、国際機関や他の二国間協力においても、数多く活用されています。

その一方で途上国では、機材の不足や、その制作や利用に従事する要員の不足、また、制作技法などのソフトウェアの不足が深刻な課題として顕在化しています。

沖縄国際センターにおける視聴覚コースは当センター設立の一年前の昭和59年に開始され、今年でちょうど10年間実施しています。その間、途上国におけるニーズの変化や技術革新に対応して、平成2年度には、コースを変更し、現在のサウンドスライド制作、ビデオ制作及び視聴覚技術コースとなりました。また、平成5年度には、筑波大学から家野教授をコース主任として当コースに迎え、同年度に、途上国のニーズ調査を実施しました。平成6年度は第2回目のコース内容の変更を行う予定です。

こうした状況のもと、視聴覚コースは平成6年度から、視聴覚メディア制作コースを年2回、ビデオ制作コースを年1回の計3回実施する計画になっています。

このフォローアップ調査団は、平成2年度以降の視聴覚コース（3コース）の履修者を対象にトルコとケニアの2国に派遣されました。本調査団の派遣のためにご協力を賜った外務省、（財）日本国際協力センター並びに、現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館の皆様に深甚なる謝意を表する次第です。

平成6年3月

国際協力事業団  
沖縄国際センター  
所長 松本宣彦



トルコ国



上) 農業省メディアセンターの印刷物

中) 人口教育促進プロジェクトのスタジオ

下) 教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局でのインタビュー

ケニア国



上) 人口教育促進プロジェクトでのインタビュー  
中) 教育研究所メディアサービスセンターにて  
下) ケニア放送協会でのインタビュー



# 目次

序文  
写真  
目次

I	派遣チームの概要	1
1.	派遣目的	1
2.	派遣国	1
3.	団員構成	1
4.	調査内容	1
5.	調査方法	1
6.	調査日程	2
7.	主要面談者	4
II	視聴覚コースの沿革	6
III	フォローアップ調査結果	11
	〈トルコ〉	
1.	調査概要	11
2.	調査対象機関の概要	11
3.	アンケートの分析結果	13
4.	当該分野の現状と問題点	13
	〈ケニア〉	
1.	調査概要	14
2.	調査対象機関の概要	14
3.	アンケートの分析結果	18
4.	当該分野の現状と問題点	18
IV	まとめ及び提言	19
1.	まとめ	19
2.	視聴覚コース改善への提言	20
V	資料	21
1.	国別研修員受入実績	21
2.	帰国研修員リスト	24
3.	質問表	26
4.	アンケート集計結果	50



# I 派遣チームの概要

## 1. 派遣目的

視聴覚技術3コース（サウンドスライド制作、ビデオ制作、視聴覚技術）に参加した研修員のうち、下記の2か国の帰国研修員、帰国研修員所属機関及び関連機関を訪問し、帰国研修員の現状、研修に対する評価・要望、当核分野における技術水準等を調査し、今後の研修コースの質的向上に資することを目的とした。

## 2. 派遣国

- (1)トルコ
- (2)ケニア

## 3. 団員構成

(氏名)	(担当業務)	(派遣時現職)
高間 英俊	団長・総括	JICA 沖縄国際センター 研修課長
西村 修司	技術指導	JICE 視聴覚技術インストラクター
丹原 一広	業務調整	JICA 沖縄国際センター 研修課職員

## 4. 調査内容

- (1) 帰国研修員の現状と動向
- (2) 研修成果の測定
- (3) 帰国研修員所属先及び関連機関の概要
- (4) 本コースに対する帰国研修員、派遣専門家、及び関連機関の要望

## 5. 調査方法

- (1) 帰国研修員、帰国研修員所属先、派遣専門家、および関連機関への訪問・面談
- (2) 帰国研修員、帰国研修員所属先、派遣専門家、および関連機関に対する質問表の送付・回収・分析

## 6. 調査日程

	月	日	内 容	宿泊地
1	12	5 日	13 : 05 沖縄発(JL904)      15 : 15 羽田着	成田
2		6 月	14 : 00 成田発(JL407)      18 : 20 フランクフルト	フランクフルト
3		7 火	12 : 55 フランクフルト発(LH3834)    17 : 05 アンカラ着	アンカラ
4		8 水	09 : 00 日本大使館 10 : 30 保健省(Ministry of health) 14 : 00 トルコ人口教育促進プロジェクト(Project of Promotion of Population Education)	
5		9 木	10 : 30 農業省地方広報課メディアセンター(Media Center, Rural Affairs Publication Dep.,Min.of Agr.) 14 : 00 教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局(Film radio TV Education Directorate,Min.of Educ.)	
6		10 金	資料整理 15 : 00 S.P.O. (State Planning Organization)	
7		11 土	09 : 30 アンカラ発(TK117) 10 : 30 イスタンブール着 13 : 00 民間放送局(Inter Star)	
8		12 日	18 : 20 イスタンブール発(LH3809) 20 : 35 フランクフルト着 22 : 50 フランクフルト発(LH580)	イスタンブール
9		13 月	08 : 55 ナイロビ着	ナイロビ
10		14 火	08 : 30 JICA ケニア事務所 10 : 00 情報放送省(Min.of Information & Broadcasting) 14 : 15 教育省(Min.of Education) 15 : 15 ケニア教育研究所(Kenya Institute of Education)	

	月 日		内 容	宿泊地
11	15	水	09 : 00ケニア放送協会(Kenya Broadcasting Corporation) 10 : 30NYS技術学院プロジェクト(Natioal Youth Service Engineering Institute) 14 : 30ジョモ・ケニヤッタ農工大プロジェクト(Jomo Kenyatta Univ. of Agriculture & Technology)	
12	16	木	社会林業訓練技術協力プロジェクト(Social Forestry Training Proiect)	
13	17	金	09 : 30ケニアマスコミ研究所(Kenya Institute of Mass Communication) 10 : 00ケニア人口教育促進プロジェクト(Population Education Promotion Project) 14 : 15ケニア国立博物館(National Museum of Kenya) 15 : 30人事局(Directorate of Personnel Management) 16 : 00日本大使館	
14	18	土	10 : 45ナイロビ発(BA068) 16 : 40ロンドン着	
15	19	日	19 : 00ロンドン発(JL402)	
16	20	月	15 : 40成田着	
17	21	火	11 : 00羽田発(JL903) 13 : 55沖縄着	

## 7. 主要面談者

### [トルコ国]

- (1) 日本大使館  
三木 秀 一 二等書記官  
坂 元 信 二等書記官
- (2) MCH/FP Directorate, Ministry of Health  
Prof. Dr. Ayse Akin Dervisoglu Director  
Mr. H. Ibrahim Somyurek Head of Communication & Media  
Production Department
- (3) トルコ・人口教育促進プロジェクト  
Mr. Muammer Sarugan 帰国研修員  
Mr. Mustafa Gursoy 帰国研修員  
Ms. Sevilay Celenk 帰国研修員  
Mr. Gulsolmaz Cumhur 帰国研修員  
山城 吉 徳 専門家 (視聴覚技術)
- (4) Studio Directorate, Ministry of Agriculture  
Mr. M. Haluk Guclu Deputy Head
- (5) Film-Radio-TV Education Directorate, Ministry of Education  
Mr. Ruhi Esirgen Consultant to the Minister of  
Education for Distance Education
- (6) State Planning Organization  
Mr. Ali Altintas
- (7) Inter-Star (民間放送局)  
Mr. Kemal Horasan  
Ms. Zerrin Eroglu Chief Engineer, Maintenance Department

### [ケニア国]

- (1) Ministry of Information & Broadcasting  
Mr. David Andere Permanent Secretary
- (2) Ministry of Education  
Mr. E. N. Njoka Senior Deputy Director of Education  
Mr. R. M. Mbato Deputy Secretary of Planning &  
Development  
Mr. I. M. Farah Deputy Secretary of Finance &  
Administration
- (3) Kenya Institute of Education  
Mr. G. M. Muita Deputy Director  
Mr. R. N. Wambugu 帰国研修員  
Mr. H. V. Ambaka 帰国研修員

- (4) Kenya Broadcasting Corporation  
 Ms.E.C.Namai Production Manager  
 Ms.M.G.A.Onyango 帰国研修員
- (5) ケニア・NYS技術学院プロジェクト  
 Mr.S.K.Bitok 帰国研修員  
 武井秀雄 チーフアドバイザー  
 中村圭子 業務調整
- (6) ケニア ジョモ・ケニヤッタ農工大学プロジェクト  
 Prof.H.M.Thairu Deputy Principal  
 杉山隆彦 チームリーダー  
 小野泰文 専門家(コンピュータ教育)  
 押山和範 業務調整
- (7) ケニア・社会林業訓練プロジェクト(キツイ)  
 西林寺隆 専門家(リーダー/普及)  
 久保芳文 専門家(社会林業訓練)
- (8) Kenya Institute of Mass Communication  
 Mr.R.Ndirango Deputy Principal  
 Mr.A.L.M'mbifwa Head of Engineering Training  
 Mr.D.Kamau Head of Production Training
- (9) ケニア・人口教育促進プロジェクト  
 Mr.J.Mbaka 帰国研修員  
 Mr.M.A.Arunga 帰国研修員  
 佐藤都喜子 専門家(リーダー/人口学)  
 松田啓 専門家(視聴覚技術)  
 金元良夫 業務調整  
 田中清文 専門家(地域開発)
- (9) National Museums of Kenya  
 Dr.M.Isahakia Director  
 Mr.C.Mwaura 帰国研修員  
 管栄子 専門家(博物館教育)  
 服部一人 青年海外協力隊員(写真)
- (10) Directorate of Personnel Management  
 Mr.H.M.Keitaka Senior Asst.Director
- (11) 日本大使館  
 阪井清志 一等書記官

## II. 視聴覚コースの沿革

### 1. 第1期（昭和59年度から平成元年度まで）

本コースは、昭和59年より、表Ⅱ-1のように、視聴覚技術（一般）コースと視聴覚（専修）コースに分け、各々6ヶ月間行われていた。両者の違いは、募集する対象研修員の背景を特定するか否かという点のみで、一般コースでは研修員の背景を特に指定せず、専修コースでは保健教育、社会教育、農業普及などのように特定分野を指定してきた。しかし、実際のカリキュラムは、両者の差はなく、全く同じものが実施されていた。

表Ⅱ-2は、第1回から9回までのコースの内訳である。カリキュラムの内容は大きくオリエンテーション日本語、視聴覚教育・教育工学理論、各種視聴覚教材制作、卒業制作、研修旅行の6つのカテゴリーに分けられる。（当時はオリエンテーションと日本語は技術コースに含めている。）

視聴覚教育理論・教育工学理論の構成科目は「効果的な教材指示の方法」、「教育システムの評価」、「教育メディアの選択」、「日本における視聴覚教育」などである。

各種視聴覚教材制作に関連する科目は「紙芝居」、「セロファン影絵」、「製本」、「印刷」、「グラフィックデザイン」、「写真」、「録音技術」、「サウンドスライド制作」、「ビデオ教材制作」、「16mmフィルム」、「OHP制作」、「ラジオ番組制作」などの科目である。

当初、制作の技術スキルとして電気実習、木工実習、金工実習、プラスチック加工などを行ってきたが、あまりに基礎的で視聴覚メディア制作に直接関連が無く、また研修員にとって実用性がないということで現在は実施していない。16mmフィルムに関してはその制作技術や使用技術は開発途上国ではすでにかなり普及しており、また近年は16mmフィルム制作が高価なことが原因で研修ニーズが低く、第6回コースからは実施していない。ビデオ機器の保守は研修員から要望の多い科目ではあったが、適当な講師が見つからないことと、現在出回っている機器が保守修理をするにはあまりにも高度なことから短期間での習得は難しいため現在は実施していない。

これらのコースは、開発途上国の教育訓練及び啓蒙活動における視聴覚教材開発のための人材養成コースとして年2回実施され、昭和59年度から平成2年度までに11回のコースを終了した。

しかし、視聴覚教育理論・教育工学をベースに印刷教材からビデオまでに各種視聴覚教材の制作、利用、評価までをカバーしようとしたため到達目標が広すぎ、また参加する研修員もメディアディレクターから制作技術者まで多岐多様にわたった。このため、科目の修得に研修員のばらつきが生じた。

これらの問題を解決し、研修員のニーズに応えるため、平成2年度以後はコースのひとつとして、サウンドスライドとビデオ制作を独立させ、従前の視聴覚技術をコンパクトにして、再編成した。



表Ⅱ—1 視聴覚コースの変遷

	1984年 (昭和59年度)	1985年 (昭和60年度)	1986年 (昭和61年度)	1987年 (昭和62年度)	1988年 (昭和63年度)	1989年 (平成元年度)	1990年 (平成2年度)	1991年 (平成3年度)	1992年 (平成4年度)	1993年 (平成5年度)
視聴覚技術コースの返還		視聴覚技術(一般)								
		視聴覚技術(専修)								
								サウンドスライド制作		
								ビデオ制作		
								視聴覚技術		

表Ⅱ—2 第1期における研修科目百分率(%)

研修内容	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
オリエンテーシ	4	4	4	4	4	4	5	5	4
日本語	20	30	27	29	22	18	21	8	8
視聴覚教育・ 教育工学理論	7	15	7	10	11	5	5	11	3
メディア制作理論									
紙芝居・影絵	3	5	2	3	3	3	3	0	0
製本/Gデザイン ポスター制作	3	4	2	3	3	3	3	2	3
写真・スライド	6	7	9	11	14	15	15	16	22
ビデオ	16	11	19	18	17	16	16	19	27
16mmフィルム	2	4	2	1	1	0	0	0	0
OHP	2	2	2	3	3	4	5	4	4
ラジオ	2	0	0	0	2	4	3	3	3
パソコン	2	2	2	1	0	0	0	0	0
木工・金工 プラスチック	12	4	0	0	0	0	0	0	0
機器の保守	2	1	2	0	0	0	0	0	0
卒業制作	8	4	10	6	8	11	12	19	18
研修旅行	7	6	9	10	10	10	9	9	4
その他	4	1	3	1	2	7	3	4	4
計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100

## 2. 第2期（平成2年度～5年度）

第1期では、メディア全般について、広く浅く学んだが、研修員の傾向としては、視聴覚教材の開発に直接に携わる専従スタッフと管理職クラスやプロデューサーなど制作に直接には携わらないものと二極分化して、研修員の間で各スキルにばらつきが目立った。

昭和63年度に行われたフォローアップ調査などの結果、必要とされる研修内容はだいたい次のような傾向に分けられる。

- (1) 教育工学をベースに各分野での視聴覚メディアの企画・制作・評価、および有効な使い方を学ぶが、理論だけでなく基礎的な制作も経験できる研修
- (2) ビデオだけを重点的に学ぶもので経験者のブラッシュアップを目的とする研修
- (3) 開発途上国において比較的機材の保有率が高いサウンドスライドや録音教材などを重点的に学ぶ研修
- (4) 機材はあっても故障して使えないことが多いので、機材のメンテナンス技術を学ぶ研修（最近の視聴覚機材は電子制御式のためメンテナンスには高度な最新の技術を要する。）
- (5) 技術協力の普及、プロジェクトの波及効果を高めるために各分野の最前線で働くフィールド・ワーカーを訓練する者を対象に視聴覚メディア機器の操作と簡単な教材の制作・利用に関する研修。

上記の5項目の内、(4)のメンテナンスコースは高度な最新の技術を要するため人材、機材が不足しており、ここ数年間は実施が困難である。

また、(5)のフィールド・ワーカー訓練者コースは研修分野がかなり広範囲で、研修員の背景が多様であるため、カリキュラム開発、教材制作等にかなり時間がかかるために平成2年度からの実施は困難である。

その結果、コース開設5年目の見直し作業において、従来の視聴覚技術全般を研修するカリキュラムから、すでに述べた問題点を解決するために、下に示す3つのコースへ改編する検討がなされた。

これらのコースでは、特に研修員のバックグラウンドの多様性に対応するためにコースを三つの専門分野に分化したことが大きな特徴である。このことによりビデオ制作を中心に研修を受けたい研修員に対してはビデオ制作コースを選ぶことにより、ビデオ制作の研修に専念できるだけでなく、ほぼ同じ背景と目的意識を持った者同士が集まるために意志疎通が容易になるという利点がある。また、従来に比較し、研修員間のバラツキが少なくなり、教える側からも効率がよい。これは、他の二コースについても共通して言えることである。

さらに、これまで教材の企画立案から制作、評価まで広範囲に渡ってカバーしようとしたために研修員が修得しなければならないスキルが多岐に渡っていた。しかし、コースを下のように分科することにより目標スキルを絞りこんで、研修の目標を明確にすることができる。

以上のように研修員から出された問題点を解決し、更に研修員のニーズに合うようにコースの見直しを図ることとする。これらのコース設定の必要性、目的などは次のとおりである。

(1) 視聴覚技術コース（統合）

従来の視聴覚技術コースの理念を引き継ぎ、対象者をメディアの企画・運営に携わる者に限定し、内容を精選し、期間を3カ月間に短縮する。

テクニカルスタッフの上に立ち、教育訓練の企画運営に携わるメディアディレクターを対象にしたコースであり、基礎的な各種視聴覚教材の制作技法から教育工学の諸理論まで幅広く身につけ、各種メディアを教育訓練に有効に利用できるように具体的な実施計画案や教材案を作ることができる人材を養成することを目的とする。

(2) ビデオ制作コース（新設）

ビデオ教材制作に携わるスタッフに対して屋外およびスタジオ撮影、およびポストプロダクションができることを具体的目標にし、ビデオ制作のための基礎的な知識と技術を幅広く身につけた人材を養成することを目的とする。

(3) サウンドスライド制作コース（新設）

ビデオを除いた写真、オーディオ、スライド制作に携わる人材の養成が途上国では必要とされている。本コースは、このニーズに対応するものである。中でも、途上国では比較的良く利用されているサウンドスライドの制作に必要とされる知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。

### III. フォローアップ調査結果

#### A. トルコ共和国

##### 1. 調査概要

トルコからの研修員は、サウンドスライド制作コースに1名、ビデオ制作コースに3名の計4名が研修コースに参加している。彼らの所属機関はいずれもトルコ保健省母子保健／家族計画局のコミュニケーションセンターである。これら4名のうち1名は退職し、面談することはできなかったが、残り3名の帰国研修員とは面談することができ、帰国後活躍していることを確認することができた。

また、調査対象機関を予定どおりに訪問、見学することができ、担当者やJICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家にも会ってインタビューすることができた。したがって、退職した帰国研修員からアンケートを回収できなかったが、残りの該当者からはすべて回収することができた。

##### 2. 調査対象機関の概要

保健省母子保健／家族計画中央事務局、コミュニケーションセンター (Mother and Child Health/ Family Planning General Directorate, Ministry of Health, Communication Center)

同センターではJICAの人口教育促進プロジェクトの支援を受けて、人口抑制、家族計画、母子保健に関する啓蒙活動を推進するためのメディア制作を行なっている。制作するメディア資材の視聴者は、一般大衆、助産婦、保健教育官である。

視聴覚スタッフは12名おり、主なメディア制作はビデオ番組である。その理由は、テレビの普及率が約95.4% (1989年調査) という数字に起因する。一般大衆向けに年間約40本のテレビ放送用ビデオ番組が制作されている。これは助産婦、保健教育官が、直接学習者を指導する際のグループ訓練の教材にもなっている。このほか同センターでは、助産婦、保健教育官を対象としたスライドやOHP教材の制作技法に関するテキストやグループ訓練用の印刷教材も年間5冊ほど作っている。

同センターには、沖縄国際センターの研修機器とほぼ同レベルの放送用ビデオ機器がJICAから供与され、それらの機器はまだ新しく、また、メンテナンス担当の技術者も個別研修で訓練を受けたので、機器の保守状態も極めて良好である。

沖縄国際センターで研修を受けたトルコの帰国研修員はすべてこの機関から派遣されており、前述の退職した帰国研修員以外はすべてビデオ制作コースの参加者である。面談とアンケートの結果から、研修コースの評価は概ね良かった。研修で修得した知識や技術は、教材を企画、制作するにあたって積極的に活用されているし、制作技術に関しては、仕事をとおして、あるいはセミナーや講義で、あるいは教材を作ったりして他のスタッフにも移転されている。しかし、少ない制作費や十分な経験を持つスタッフが少ないため、研修効果を十分満身に発揮できないことも指摘している。

人材育成の問題点としては、視聴覚スタッフの上司とJICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家も、予算、訓練者、時間の不足をあげており、今後オンザジョブトレーニングを強化するとともに、専門家の派遣を要望している。

同プロジェクトは、首都アンカラの東部にパイロット地区を設定し、地方への展開を1994年から始める。そうすると、マスメディア (テレビ) 主体のメディア制作だけでなく、グループ訓練用の教材として印刷やスライド等を活用することが効果的なので、パソコン (マッキントッシュ) によるDTP(Desk Top Publishing)教材開発の準備も進めている。現在、帰国研修員からの研修要望は台本作成、演出、照明、写真撮影技術等のビデオ制作に関する技術だが、彼らの上司や専門家は、それら以外に今後のことも考慮のうえで、グラフィックデザインやDTPの印刷メディア制作技術の研修も要望している。また、ビデオ制作に関する専門技術の特別コースを数多く新設することを要望している。

農業省地方広報課メディアセンター (Rural Affairs Publication Department, Ministry of

### Agriculture, Media Center)

59名の視聴覚スタッフが、農業、畜産業、水産業従事者に対する情報提供のためのメディア制作を行なっている。ここも主なメディア制作は放送用のビデオ番組で、毎週1日だけ朝と夕方15分の番組を放送している。年間の平均番組制作数は約60本、うち4%ぐらいはグループ訓練用のビデオ教材である。また、地方のトレーニングセンターで使用するテキスト等の印刷教材も制作している。テキストの年間制作数は50冊ぐらい。メディア制作の割合はビデオが7割、印刷が3割ぐらいである。

ビデオ機器は業務用であるが、放送基準にも耐えうるビデオテープ(U-matic)を使用している。同センター内には印刷室があり、印刷技術者もすべてそろっているので、デザインから印刷までの全工程がほぼ外注なしで可能である。しかし、印刷機は旧式の1色刷りの輪転機であるため、印刷されたテキストのフルカラー写真は版ズレをおこしているもの中にはある。

視聴覚スタッフの上司は、同センターが最新技術の視聴覚機器を保有していないため、現在のスタッフの知識や技術レベルに満足していない。人材育成は仕事をとおして行なっているが、うまくいかない理由として、教材、時間、訓練者の不足をあげている。今後の計画としては、内部でワークショップを行ったり、外部の職員研修に参加させることを考えていて、必要とする研修内容は、企画、台本制作技法と将来のためにあらゆるメディアの制作技術を要望している。

### 教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局 (Ministry of Education, Film Radio TV Education Directorate)

テレビ、ラジオ放送の教育番組制作と、小中高等学校で使用する印刷教材の制作が事業内容である。機関名にまだ残っているように、1952年設立当時は16mmフィルムも視聴覚メディアの主力だったが、時流に逆らえず、ビデオにその座を譲った。現在はテレビ、ラジオ、印刷メディアが主に活用されている。視聴覚スタッフは約60名。

年間のオーディオ番組制作数は約400本(1本あたり15~20分)、ビデオ番組制作数は約350本(1本あたり15~20分)で、視聴者は大学を除く小中高の学生だが、ヨーロッパに出稼ぎに行っている人々に向けての教育番組も制作し、放送している。放送された番組は、教材として販売も行なっている。印刷教材は多種多様に作られていて年間印刷枚数は約80万枚である。メディア制作の割合はオーディオが3.5割、ビデオが3割、印刷が3.5割ぐらいである。

こちらにも主に業務用のビデオテープ(U-matic)を使用しているが、機器の種類や数量は豊富で、放送用機器のレベルに達している。アニメーションの制作スタッフもそろっていて、外注しないでアニメーション制作が可能である。印刷に関しては、1色刷りの輪転機があり、デザイン、印刷技術者もすべてそろっているため、外注なし。また、パソコン(マッキントッシュ)を使ってグラフィック作成も行なっている。

人材育成は、仕事中に訓練したり、1992年には、世銀のラジオとテレビの番組制作研修コースに18名ぐらいスタッフを参加させている。しかし、まだ最新技術の活用には至っていないので、スタッフの知識、技術レベルには満足していない。人材育成がうまくいかない理由としては、予算、教材、訓練者の不足をあげている。今後の計画としては、オンザジョブの訓練を続け、また、世銀の協力を得て、アメリカでの研修も予定している。希望の研修は、企画調査、評価技法、ビデオ機器の操作技術、DTP、OHP、サウンドスライド、マルチメディア制作技術である。

### インタースター (Inter Star)

トルコには、全国に放送しているテレビ放送局が10局あり、その半数が国営放送局で残りが民営の放送局である。地方都市の民間放送局もたくさんあるが、それらとのネットワークは形成されていない。

インタースターは、1989年に設立された民間では最初のテレビ局で、規模も一番大きい。所在地はイスタンブール市である。前述したとおり、近年のテレビメディアの普及

は目覚ましく、それに伴い民間放送局がここ3、4年で数多く設立された。1993年には、インタースターと同系列で音楽専用番組の放送局（テレオン、米国MTVと契約）も開局された。また、同系列のラジオ局も3局ある。インタースターの番組は、ニュース番組とトーク、音楽、ゲーム、外国映画等の娯楽番組が主体で、教育番組は放送していない。外国映画以外は、すべて自社制作である。一日24時間放送しているが、放送番組の約70%は、外国からの輸入である。番組は衛星放送で全国に送信されている。

番組制作に携わるスタッフは約170人ぐらいで、仕事は完全に分業化されている。放送機器のレベルは、すべてBetacamフォーマットを採用しているので申し分ない。コンピューターグラフィックスをビデオ画像に取り込んだり、デジタル技術で3次元イメージの特殊効果を作成したりと最新技術利用にも余念がない。機種が豊富で、設備も充実している。また、毎月の放送番組紹介パンフレットを発行しており、パソコンを使って、その原稿も作成している。

ビデオ機器は、ほとんどがSONY製品なので、技術者だけはSONY支社で研修を受けた実績があるが、できるだけ技術を持っている経験者を雇うように努力しており、スタッフの訓練が必要な場合は、すべて仕事をとおして行なっている。

### 3. アンケートの分析結果

帰国研修員のアンケート回答結果によると、研修コースの内容は、彼らの業務に直結したものであり、概ね好評である。技術移転もハードウェアの技術を中心に比較的うまくいっており、研修後、昇進した者はいないが、プロジェクトを推進していくうえで、原動力として活躍していることが伺える。彼らはビデオ番組制作のディレクターであるので、当然ビデオを一番有効なメディアとして考えていて、他のメディアの評価は低い。研修要望も供与機材を活用できるビデオ制作技術が多いが、企画構成、分析力を要する教授設計や演出技法等のソフトウェアにも関心が高いのは、帰国後業務を遂行するうえで、ますます重要で、しかも身に付けることが難しい技術であることを体得したものと思われる。

一方、彼らの上司やJICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家のアンケート回答結果によると、メディア制作の中で主要なメディアがビデオとはいえ、いろいろなメディア開発をマネジメントしている立場にあるので、有効なメディアの判断はビデオの一極集中ではない。メディア開発の目的や視聴者に応じて、複数のメディアを使い分けており、制作前の調査や制作後の評価もやっており、教材の制作数も比較的多い。

人材育成については、どの機関も関心があるが、時間、教材、指導者、予算の不足のどれかが阻害要因としてあげられている。ほとんどの技術が必要な研修であるとして関心が高いが、やはり当面の必要不可欠なメディアとして、どの機関もビデオ制作関係の技術研修には高い優先順位をつけている。希望の研修期間は、平均4ヶ月である。

### 4. 当該分野の現状と問題点

トルコでは、テレビがかなり普及していることから、放送目的のビデオ番組を中心としたメディア開発が盛んであり、そして第二のメディアに位置づけられているのが印刷教材である。しかし、JICAプロジェクトに入っている最新のビデオ機器に対して、他の公共機関の機器のレベルにはかなり差がある。今後、インタースターのような民間テレビ放送局は、最新のビデオ技術を取り入れ、益々制作レベルが高くなってくると考えられるので、公共機関、特に研修実績のない農業省のような機関は、スタッフの訓練、育成が急務である。

また、視聴覚分野におけるコンピューター技術の導入は、トルコでも徐々に関心が高まってきており、教育省では、実際にマッキントッシュが印刷教材作成に利用されているし、JICAプロジェクトでも、第二フェーズからマッキントッシュの技術を活用したメディア制作が、地方で展開される。ハードウェアの技術革新による進歩は著しいので、新しい技術を導入すると同時に、その技術を、教材開発にどのように活用するかの企画構成力を養成する教授設計術にも力を注ぐ必要がある。

## B. ケニア共和国

### 1. 調査概要

ケニアからの研修員は、サウンドスライド制作コースに3名、ビデオ制作コースに4名、視聴覚技術コースに3名の計10名が研修コースに参加している。これら10名のうち1名は退職し、2名は連絡が不十分で面談することはできなかったが、残り7名の帰国研修員とは面談することができ、帰国後の活動状況を知ることができた。

調査対象機関を予定どおりに訪問、見学することはできたが、訪問先が多いため、担当者や専門家へのインタビューは時間的なゆとりがなく、多くの詳しい情報を得ることはできなかったが、概要を把握することはできた。帰国研修員からのアンケートの回収率は8割、調査対象機関からは4割、JICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家からは5割であった。

### 2. 調査対象機関の概要

教育省ケニア教育研究所 (Ministry of Education, Kenya Institute of Education)

同研究所では、小中高等学校の学生を対象としたラジオ、テレビで放送する教育番組と、学校教育、職業訓練、社会教育等で使用されるグループ訓練用のビデオ、印刷教材を制作している。また、学校教師が、教育現場で使用する視聴覚教材制作の訓練指導を行ったり、教具の制作、提供も行なっている。要望があれば、学校教育のカリキュラム研究開発も行なっている。

オーディオ機器は最新のものではないが、放送目的の機器が揃っている。ビデオ機器は業務用U-maticフォーマットを採用している。機種は豊富ではないが、設備は十分整っている。また、ビデオのデジタル特殊効果装置の購入を計画している。印刷室には、旧式の1色刷りの輪転機があり、隣の部屋は教具制作室になっている。今後、DTPの教材開発を計画しており、パソコン1台購入予定である。

同研究所からはビデオ制作コースに1名、視聴覚技術コースに2名参加している。前述の退職者はこの機関の帰国研修員である。今回、調査の対象となった研修コース以前にも、当研究所から5名が研修コースに参加している。しかし、全員退職して、他の機関へ転職していった（うち1名は事故で死亡）。ケニアでは、政府機関で働く職員の年収は概して低いので、このような特殊な技術を身につけると外部機関から良い条件で引き抜きの誘いがかかる。ここも例に漏れず多くのスタッフが大学等他の機関に転職していった。この現象から起こる人材不足が、同研究所の問題点である。

現在残っている2名の帰国研修員は、研修コースの評価のなかで、ビデオ機器の不足、DTP技術の研修日数不足の意見があったが、全体的には概ね良かった。研修で修得した知識や技術は、教材を企画、評価、制作する場合にほとんど活用されているし、メディアに関する理論や制作技術は、仕事をとおして、あるいは教材を作ったりして他のスタッフにも移転されている。今後必要な研修は、教授設計、ビデオ編集、デジタルビデオエフェクト、アニメーション、DTP技術である。

情報放送省ケニア放送協会 (Ministry of Information and Broadcasting, Kenya Broadcasting Corporation)

ケニアには、ケニア放送協会が経営するKBCというテレビ局とKTN (Kenya Television Network) という民放テレビ局の2局がある。KBCは、1962年に設立されたケニア最初のテレビ局である。1989年までは情報放送省の直属でVKT (Voice of Kenya Television) という名称の国営テレビ局であった。その後は、現在の名称KBCに変え、まだ情報放送省の管轄にあるが、財源は国からの援助はなく、主に広告放送収入によって賄っているため、半官半民の放送局と言ったところである。当協会はラジオ局も経営している。

KBCのテレビ番組放送時間は、平日が午後4時から午後11時まで、土、日、祝祭日が正午から夜の12時までである。この電波は国土の全域をカバーしていない。海外番組



依存率は50%ぐらい。テレビ、ラジオ番組に携わっているスタッフは300名ぐらいいる。

ビデオ機器はBetacamとU-maticフォーマットが混在しており、スイチャー、サウンドミキサーの数が豊富ではなく、放送局では常識になっているABロール編集システムが組み立てられていない。

当協会からはビデオ制作コースに1名参加している。研修当時彼女は、普通のプロデューサーだったが、帰国2年後にチーフプロデューサーを補佐する立場に昇進している。彼女の参加した研修コースに対する評価は、最終課題の日数不足以外はすべて高く評価している。研修で習得した知識や技術は、教材を企画、評価する場合に活用されているし、企画、評価技法はもちろん制作技術も、仕事をとおして他のスタッフにも移転されている。しかし、機材、予算の不足等で習得した技術が十分活かさない問題もある。今後必要な研修は、教授設計、デジタルビデオエフェクト、アニメーション技術である。

#### 大統領管轄国立青年技術学院 (Office of the President, National Youth Service Engineering Institute)

社会、経済の発展に必要な知識、技術を身につけた人材を輩出するための職業訓練学校である。当初訓練目標が熟練工 (Craftsman Level) の養成であったが、今までは、技能者 (Technician Level) の養成へレベルアップを図るためにJICAへ技術協力を要請し、1988~1994年の7年間にわたり、現在プロジェクト活動が展開されている。

同学院には視聴覚スタッフが2名いて、同学院で学ぶ学生を教授指導するための視聴覚教材制作を行なっている。使用している視聴覚メディアは、ビデオとサウンドスライドである。印刷メディアは扱っていないので、印刷教材は購入に頼っている。機器のレベルとしては、編集機なしの家庭用のビデオ機器と、1台のプロジェクターを使用した簡単なシステムのスライド機器を使用しており、沖縄国際センターの研修用機器のレベルよりかなり低い。

同学院からはビデオ制作コースに1名参加している。彼の質問表に対する回答は、満足のいくものではない。研修コースに対する評価は良いが、彼が研修中に修得した制作に関する知識や技術が全く活用されていないからである。つまり、本来彼は電子工学の講師であり、視聴覚スタッフではないので、自分の講義で使用する視聴覚教材は開発できても、当学院全体のニーズには組織上応えきれないのである。当然、彼が修得した知識や技術は、他のスタッフに移転されていない。この問題は、JICA日本人プロジェクトリーダーも指摘しているところであり、視聴覚技術セクションの組織的、効率的な運営改善が当面の課題である。

今後の研修要望は、プロジェクトリーダーからは、企画、調査、評価等の教授設計理論を、帰国研修員からは、台本作成、演出、ビデオ制作のオペレーション技術があげられている。

#### ジョモケニヤッタ農工大学 (Jomo Kenyatta University College of Agriculture and Technology)

同大学は、1977年以来、JICA協力のもとで、農業及び工業分野の高等技術者の養成と基盤が整備されてきた。プロジェクト方式の技術協力は1995年4月まで継続される。1993年12月に正式に大学 (University) に昇格した。

同大学には、視聴覚機材担当のスタッフが1名だけいるが、機器の保守管理と、教官が使用する際に機器を操作するだけで、教材開発のためのメディア制作は、まったく行なわれていない。視聴覚教室には、U-maticのVTR、スライド映写機、16ミリフィルム映写機、ターンテーブル、カセットレコーダーがあるが、主に再生目的で使用されている。視聴覚機材の予算が全然確保されていないので、視聴覚メディアを活用した効果的な教授方法の取り組みは弱い。

#### 社会林業訓練プロジェクト、キツイ地域社会林業訓練センター (Social Forestry Training

### Project, KITUI Social Forestry Training Centre)

JICAのプロジェクト方式技術協力により、半乾燥地における社会林業を推進するための実用的な植林等の知識、技術を習得させる訓練活動を行なっている。

同センターでは、農民、女性、学校教員、普及員等様々な受講者を対象に年間12の訓練コースが実施されている。コースの期間は1~2週間で、参加人数は30人程度が多い。普段は野外に出て実地指導を行なうので、視聴覚機器は使わないが、コースの講義の時には、OHP、スライド、ビデオプロジェクターが使われている。視聴覚教材制作専任スタッフはいないが、訓練指導を担当するカウンターパートが2名いて、彼らが日本人訓練専門家の指導の下でメディア制作を行なっている。制作している主な教材は、パソコン(マッキントッシュ)を使用したDTP(リーフレット等)とスライドである。現在、8mmビデオ機器(家庭用と業務用の中間レベル)を使用したビデオ教材の開発を計画中である。

日本人プロジェクト訓練リーダーのアンケートに対する回答では、現在、視聴覚技術の専門的訓練を受けた者がいないことから、試行錯誤で教材開発に取り組んでいる状態であり、短期の視聴覚技術専門家の派遣を要望している。

### 情報放送省ケニアマスコミュニケーション学院 (Ministry of Information and Broadcasting, Kenya Institute of Mass Communication)

ケニア国内はもとより、東アフリカ諸国におけるテレビ、ラジオ番組制作及び新聞報道の知識と技術を身に付けた人材を育成する特殊技術専門学校である。在学期間は3年間で、テレビ、ラジオ、フィルム、新聞、雑誌のそれぞれのメディアについて学ぶ。マスメディア以外の機関で働く人のために、2週間ぐらいのセミナーも開催している。

視聴覚スタッフは17名、学生を教授指導するためのビデオ、オーディオ教材を開発している。U-maticフォーマットのビデオ機器を使って訓練している。2インチのVTRがあるが、かなり旧式なので実際には使っていない。訓練施設としては機器の数は少ない。

同学院からは、サウンドスライド制作コースに参加した帰国研修員が1名いる。彼は当初技術者であったが、異動して現在は専らインストラクターとして活躍している。面談はできなかったが、アンケートの回答によると、彼の研修コースの評価としては、コース期間と実習時間が短いと指摘していること以外は概ね良い。台本作成、写真撮影、録音、ビデオ撮影、編集等習得した技術は、教材を制作するうえで活用されており、講義やワークショップをとおして学生とスタッフに技術移転も行なっている。サウンドスライドの知識や技術は特に活用されていないが、将来開発すべきメディアとして計画している。

過去にオランダへテレビ番組制作の研修に1名派遣した実績があり、研修コースに参加させたり、仕事をとおして人材育成を行なっている。しかし、適切な機材と訓練者の不足は、人材育成がうまくいかない問題点としてあげている。今後は、セミナーやワークショップを開催したり、JICAやBBCの協力要請を計画している。特に旧式の機器(稼働できないものもある)を使用した訓練は、同学院が直面している問題であり、最新機器の更新に迫られている。そういうことで、スタッフの上司も帰国研修員も最新の機器を使用したビデオ制作技術の研修協力をJICAに強く要望している。具体的な研修対象技術は、台本作成、演出、撮影、編集、デジタルビデオエフェクトである。

### 人口教育促進プロジェクト (Population Education Promotion Project)

同施設はケニアマスコミュニケーション学院の敷地内にあり、JICAの人口教育促進プロジェクトの支援を受けて、人口増加抑制、家族計画、母子保健に関する啓蒙活動を推進するためのメディア制作を行なっている。約10名の視聴覚スタッフが、ケニアマスコミュニケーション学院から派遣されている。

主なメディア制作は、ラジオ番組、放送用とグループ訓練用のビデオ番組、スライド教材、印刷教材と多彩であり、ケニアのメディアを取り巻く環境と視聴者の属性に応じてメディアを柔軟に使い分けている。主な視聴者は、家族計画の指導員である。平均年間制作数は、ラジオ番組が10本(1分間スポット)、ビデオ番組が4本(約30分)、スライド教材が3本(約10分)、印刷教材がテキスト、DTP合わせて3種類(約10ページ)

である。

同施設には、視聴覚機器がJICAから供与されており、ビデオ、オーディオ機器は放送用で、サウンドスライド機器は2台のプロジェクターシステムである。パソコン（マッキントシュ）はDTP教材を作成するだけでなく、写真から画像をパソコンに取り込み、加工してスライドに出力するソフトを活用して、スライド教材作成を行なっている。機器のレベルは、沖縄国際センターの研修機器とほぼ同レベルで保守状態もかなり良い。

同施設からは、ビデオ制作コースに1名、サウンドスライド制作コースに1名参加している。彼らは参加したコースを高く評価しているが、ビデオ制作コースの一部の科目は本人のレベルより低いと言っており、また実習の際、ビデオ機器の数も少ないと指摘している。サウンドスライドの研修に関しては、パソコンソフトを活用したスライド画像の加工技術の研修を要望している。

調査、台本作成、教材評価、写真撮影、照明、スライド制作、スライド音声同調、ABロール編集、多重録音、演出等の修得した知識や技術は、教材の企画、制作、そして評価をとおして活用されており、また、ワークショップあるいは仕事をとおしてスタッフに技術移転されている。しかし、技術者の不足は、修得した技術を効果的に活用できない要因としてあげている。

人材育成については、主に仕事に訓練を行っているが、コンピュータやスライド、フランクネルグラフの短期派遣日本人専門家をJICAから派遣してもらった実績がある。

巡回指導するとき電気が使えなかったり、仮に電気があり、ビデオ機器が使えたとしても、視聴者の注意が映像そのものにいき、肝心の教材番組のメッセージに耳を傾けないという傾向がある。その反省から、今後の課題として電気を使わない簡単なメディア、例えばフランクネルグラフ等の開発を進めている。

今後の研修要望は、教授設計、ビデオ制作技術、グラフィックデザイン、DTP、サウンドスライド制作技術等である。

#### 内務国家遺産省ケニア国立博物館 (Ministry of Home Affairs and National Heritage, National Museums of Kenya)

考古学、生物学上重要な資料や遺産を展示、公開している。同博物館の見学者は一般人や観光客の他に小中学校の生徒がいる。それらの見学者に対して、3名の視聴覚スタッフがビデオやスライド、印刷教材を制作し、情報を提供している。

視聴覚機器は、最近JICAから供与された家庭用のビデオ機器があり、ビデオ教材開発を始めたばかりである。サウンドスライド機器は1台のプロジェクターシステムであるが、保守状態はあまり良くない。

同博物館からは、サウンドスライド制作コースに1名、視聴覚技術コースに1名参加している。そのうちの1名に面談できた。彼のコースに対する評価は、概ね良い。修得したメディアの基礎理論やマネジメントの知識、ビデオ制作、DTP技術等は、彼が教材を企画、企画制作するうえで活用されている。また、それらの知識や技術は、セミナーやワークショップをとおして、あるいはそれらの知識や技術を紹介する教材を作ったりして、他のスタッフにも技術移転されている。

人材育成は、仕事をとおして行なったり、また、JICAの研修や他の機関の研修に参加させて行なっている。人材育成がうまくいかない要因として、機材と予算の不足をあげている。今後、人材育成のための予算の獲得と、ケニヤマスコミュニケーション学院のような機関で研修を受けさせることを計画している。

今後の研修要望としては、台本作成技法、ビデオ機器オペレーション技術、グラフィックデザイン、DTP、サウンドスライド技術、マルチメディア等があるが、最近ではビデオ機器の供与とJICA専門家の協力を受けているので、ビデオ教材開発技術への関心が特に高い。

現在、博物館教育のJICA 専門家（菅栄子）及び写真専門の協力隊員（服部一人）が、当館に派遣されている。

### 3. アンケートの分析結果

帰国研修員のアンケート回答結果によると、研修コースの内容は、概ね好評であるが、研修員の知識、技術レベルからくるコース期間や研修レベルに対する不満が少しある。ケニアからは、全コースも参加している実績があるが、ビデオ重視の傾向があり、帰国後、習得したサウンドスライド制作技術の活用はあまり行なわれていない。技術移転は、1名を除いて良好である。しかし、現在の自分の知識技術レベルには満足していない者が多く、最新技術をもっと身に付けたいという欲求は強い。彼らにメディアの有効性をチェックしてもらおうと、ビデオ、オーディオ、写真の優先順位となる。研修要望は、教授設計や演出技法等のソフトウェアと、デジタルビデオ効果とDTPの新しい技術に高い関心が集まっているのは、興味深い。

一方、彼らの上司やJICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家のアンケート回答結果によると、有効なメディアの判断は、帰国研修員の意識とほぼ似通っている。メディア開発の主力は、オーディオ番組とビデオ番組である。今後開発予定のメディアは、多種多様である。

人材育成の問題については、どの機関も教材、指導者の不足をあげている。ほとんどの技術が必要な研修として関心が高いが、やはり主流のメディアとして、どの機関もビデオ制作関係の技術研修には高い優先順位をつけている。希望の研修期間は、平均4ヶ月である。

### 4. 当該分野の現状と問題点

ケニアでは、テレビはあまり普及しておらず、ラジオがまだまだ第一のメディアである。従って、オーディオ教材の開発に取り組む機関は多い。その一方で、時代の主流であるビデオ教材開発に対する関心はかなり高く、各機関とも積極的にビデオ教材制作に取り組んでいる。しかし、全般的にJICAプロジェクト以外のビデオ機器のレベルは低く、研修コースで習得した技術も機材がないので、実際活用できないこともよくある。これらのジレンマからか、メディア開発に従事するスタッフは、最新機器を使用した制作技術に対して非常に関心が高い。

テレビは今後も普及し、ビデオ教材の需要も益々高まるだろう。しかし、市内から離れると、電気も水道もない生活をしている人々がほとんどで、動画を見せるビデオ教材は、娯楽の対象となってしまう、教育あるいは啓蒙の役割を果たさないという傾向がある。そうかといって活字メディアの印刷教材は、彼らの教育レベルに合わない。

メディア開発に従事するスタッフを取り巻く環境と、視聴者を取り巻く環境の二重の課題を抱えているのが現状である。あらゆるメディアに応用しやすいパソコン技術等の最新技術も必要であるが、メディアの選択、視聴者の分析、正確に分かりやすくメッセージを伝達する方法を取り扱う教授設計術がそれ以上に必要である。

## Ⅳ. まとめ及び提言

### 1. まとめ

今回の調査対象国であるケニアとトルコは、その発展度合においてかなりの差がある。しかし、両国の当該分野においての共通の問題は程度の差はあれ、次のとおり存在している。

- (1) 資金が不足している。
- (2) 人材が不足している。

この二つの基本的問題から、次のような問題が起きている。

- (1) 古い機材を使用させるをえない。
- (2) メンテナンス費用が支弁できず、機材の故障が多い。
- (3) 制作費用を切詰めざるをえない。
- (4) 技術者の離職率が高い。
- (5) 人員が不足している。

このような状況下で、今回のJICAプロジェクト以外の調査対象機関では、次のような方策によって、これらの問題に対処してきている。

- (1) 外部に援助を求める。World BankやJICAなどの外国援助関の援助を求めている。また、母子保健に関する作品制作であればUNICEF、人口家族計画であればUNFPAに資金援助してもらうケースもある。
- (2) 制作は、外注せずに極力直営で行う。トルコの教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局では、アニメーション制作も独自で行っている。また、全機関で印刷・製本までを独自で行っている。
- (3) 人材養成を独自の機関で行っているところがある。トルコの教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局では、同敷地内にラジオ・テレビアナトリア技術高校を併設しており、語学別（日本語コース、英語コース）にクラス編成している。最近の放送技術の急速な発展に伴う放送技術者不足を補う必要が生じたため、日本や米国の進んだ技術を導入しようとするものである。ケニアでは、テレビやラジオ番組制作及び新聞報道の知識や技術を身につけた人材を育成する技術専門学校（Kenya Institute of Mass Communication）がある。一方、トルコやケニアのJICA人口家族計画プロジェクトでは、沖縄国際センターの視聴覚コースと同程度かそれ以上の設備を有し、そこのカウンターパートは沖縄国際センターなどで研修を受け、研修終了後それぞれのプロジェクトで制作スタッフの中核となって活躍している。我々の印象として、これらプロジェクトは、活気に満ちていた。

このようにJICAプロジェクトと非JICAプロジェクトの質的な差は顕著であった。しかし、非JICAプロジェクトにおいても、世界銀行の農業普及ローンや教育ローンの中で徐々にではあるが、機材を新規購入してきている。きちんとした当該分野の研修機会が少ないことや当該業種で離職率が高いことから、人材養成が急務である。その意味で沖縄国際センターの研修コースに対する期待はますます強い。

表Ⅳ-1は、帰国研修員及び視聴覚機材を活用している機関の「各メディアの有効性」についてのアンケート結果である。それによれば、全てのグループでビデオが一位である。ケニアではオーディオが二位であり、トルコでは、DTPを含む印刷／グラフィックが上位である。一方、ケニアでのそれは低い位置にある。写真も全グループで上位である。OHPがトルコの機関以外で下位に位置する。

表Ⅳ－１ アンケート結果  
「有効なメディアの順位」

順位	帰国研修員		視聴覚機材活用機関	
	ケニア(6人)	トルコ(3人)	ケニア(2人)	トルコ(3人)
1	ビデオ	ビデオ DTP	ビデオ	ビデオ
2	オーディオ	---	オーディオ	写真
3	写真	写真	写真 サンドスライド	OHP
4	サンドスライド	マルチメディア	---	DTP
5	OHP	オーディオ CAI	DTP	サンドスライド
6	CAI	---	OHP	オーディオ
7	マルチメディア	サンドスライド	マルチメディア	CAI
8	DTP	OHP	CAI	マルチメディア

## 2. 提言

ケニアとトルコでの調査の結果として、まず研修ニーズについては次のことが言える。

- (1) JICAプロジェクト（ビデオが主）では、帰国研修員はアクティブに活躍しており、今後の研修としては、より高度なデジタルエフェクトやアニメーションを要望している。ビデオのデジタル化はJICAプロジェクトでは進んでいる。また照明技術についてもニーズが高い。
- (2) 一方、非JICAプロジェクトでは、基礎的な技術習得による人材養成が求められている。
- (3) ケニアとトルコ両国における教育・訓練、普及・啓蒙活動のためのコミュニケーション手段として利用されているメディアは、まず印刷教材とビデオが主体である。トルコでは、テレビ放送による普及・啓蒙活動が積極的に推進されている一方、ケニアは、ビデオはスタンド・アロンのような利用形態であり、オーディオのニーズも強い。
- (4) トルコでは、伝統的な印刷メディアへのコンピューター技術の応用（DTP）へのニーズも高い。

上記のことを踏えると、JICA支援プロジェクトか否かの状況を認識しつつ、今後ますますビデオ制作のデジタル化（編集や効果）に対応する一方、従来のテープtoテープ編集や照明などの基本的なものに対するニーズもまだある。従って新しいメディアに対して基礎的なものは、研修内容に入れておく必要がある。また、制作技術のみに偏重せず、教育工学的かつ視聴覚メディアのシステムティックなアプローチからの教授設計、企画を念頭に入れる必要がある。

## V 資 料

1. 国別研修員受入実績
2. 帰国研修員リスト
3. 質 問 票
4. アンケート集計結果





研修員受入実績（サウンドスライド制作）

国名	2年度	3年度	4年度	5年度	合計
アジア地域	7	1	2	4	14
バングラディッシュ		0			0
中国	0	0		1	1
インドネシア	1	0			1
マレーシア	1				1
モルディヴ			1		1
ネパール	2	0	0	1	3
フィリピン	1	0	0	1	2
シンガポール			0		0
タイ	2	1	1		4
スリ・ランカ				1	1
中近東地域	0	1	1	1	3
エジプト	0				0
イラン			1 ※3		1
トルコ		1 ※1	0		1
シリア				1	1
アフリカ地域	1	2		1	4
ケニア	1	1		1 ※4	3
マダガスカル			0		0
タンザニア		1			1
ルワンダ				0	0
中南米地域	3	2	3	2	10
アルゼンティン	1				1
ブラジル	1			1	2
ホンデュラス			2		2
メキシコ	1			1	2
パラグアイ	0	1			1
ペルー		1 ※2	1		2
大平洋地域		0	2	1	3
キリバス		0			0
西サモア		0			0
パプア・ニューギニア			2		2
フィジー				1 ※5	1
合計	11	6	8	9	34

※1・3・4 C/P枠応募

※2 C/P枠応募（集団枠受入なし）

※5 物故研修員

研修員受入実績表（ビデオ制作）

年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	合計
アジア地域	3	4	3	8	18
中 国				1	1
ブ ー タ ン	1 ※				1
インドネシア				1	1
マレーシア	1				1
フィリピン	1	2 (うち1名※)	1	1	5
シンガポール		1	1	1	3
スリ・ランカ				2 (うち1名※)	2
タ イ		1		2 (うち1名※)	3
イ ン ド			1		1
中近東地域	1	2	2	1	6
エジプト		1	1		2
トルコ	1 ※	1 ※	1 ※	1 ※	4
アフリカ地域	1	2	3	1	7
ギニア			1		1
ケニア	1	2 (うち1名※)	1 ※	1	5
セネガル			1		1
中南米地域	5	1	4		10
アルゼンティン	2				2
メキシコ			2		2
グアテマラ	1 ※		1		2
ホンデュラス		1			1
パラグアイ	1				1
ヴェネズエラ	1				1
コロンビア			1		1
大平洋地域	2			2	4
パプア・ニューギニア	1			2	3
西サモア	1 ※				1
欧州地域		1			1
ポーランド		1 ※			1
合 計	12	10	12	12	46

※個別枠応募

研修員受入実績（視聴覚技術）

国名	2年度	3年度	4年度	合計
アジア地域	2	5	4	11
中国		1		1
インドネシア	1		1	2
スリ・ランカ		1		
フィリピン		1		1
シンガポール			1	1
タイ	1	2	2	5
中近東地域		1		1
エジプト		1		1
アフリカ地域	1	1	2	4
ケニア	1	1	1	3
ザンビア			1	1
中南米地域	2	2	3	7
アルゼンティン	1		1	2
コロンビア			1	1
ホンデュラス		2		2
パナマ	1			1
ドミニカ			1	1
大平洋地域			1	1
ソロモン			1	1
欧州地域		1		1
サイプラス		1		1
その他				
UNETPSA				
合計	5	10	10	25

帰国研修員リスト (ケニア国)

No	氏名	年	研修コース	所属機関	現職	職務概要
1	MAINA JOHN KAIRU	34	1st Sound Slide Production	Kenya Institute of Mass Communication Ministry of Information and Broadcasting	Studio Technical Operator I	Video editing and locational shooting Lectures on post production techniques
2	MARY GORETTI ATIENO ONYANGO	38	1st Video Production	Kenya Broadcasting Corporation(Broadcasting Station)	Television Producer II	Producer/ director heading the children-women unit
3	LUCAS ROY ONANGO WERE	37	1st Audio Visual Technology	Kenya Institute of Education Teachers Service Commission	Lecturer (science media)	Producer trainee in the HLM/ TV division of the educational media section at the KIE
4	DAVID KANGETHE KARIUKI	28	2nd Sound Slide Production	National Museums of Kenya Ministry of Home Affairs and National Heritage	Audio Visual Officer	Producing educational materials for visitors and assistance of researchers
5	JOHN MURIUKI MBAKA	31	2nd Video Production	Kenya Institute of Mass Communication Ministry of Information and Broadcasting	Studio Technical Operator	Studio Technical Operator Working in a Television Studio
6	RICHARD NGUGI WAMBUGU	35?	2nd Video Production	Teachers Service Commission Ministry of Education	Lecturer-Film & T.V.	Directing and Producing Films, T.V., and Video and Tape Slide for Use in Schools
7	CLEMENT MWAURA	38	2nd Audio Visual Technology	National Museums of Kenya Ministry of Home Affairs and National Heritage	Audio Visual Aids Officer	In charge of All Museums Audio Visual Network Designing and Production of Learning Resources and Training Other Staff
8	SAMUER KIBET BITOK	34	3rd Video Production	National Youth Service Engineering Institute Office of The President	Lecturer in Electronics	Lecturer-electronics
9	HENRY VUSALA AMBAKA	32	3rd Audio Visual Technology	Curriculum Development & Research Centre Kenya Institute of Education	Studio Technical Operator	Planning & Organization of Practical Demonstration in Audio Visual Productions and Operations Techniques
10	ARUNGA MICHAEL ANGAYA	26	4th Sound Slide Production	Kenya Institute of Mass Communication-JICA/ PEPP Ministry of Information and Broadcasting	Journalist Attached to the PEPP	Assisted the chief editor with collection and compilation of news and feature stories for the rural magazine, also report

帰国研修員リスト (トルコ国)

No	氏名	年	研修コース	所属機関	現職	職務概要
1	MUAMMER SARUGAN	39	1st Video Production	MCH/ FP General Directorate Ministry of Health	Medical Technologist Health Trainer	Health training and video program production assistance
2	YUNUS KAPLAN	38	2nd Sound Slide Production	MCH/ FP General Directorate Ministry of Health	Expert (as health educator)	Expert (as health educator)
3	MUSTAFA GURSOY	25	2nd Video Production	MCH/ FP General Directorate Ministry of Health	Employee of Press and Public Relations Department	He will be appointed as a video program producer.
4	SEVILAY CELENK	27	3rd Video Production	MCH/ FP General Directorate, Communication Center Ministry of Health	Assistant Producer	Assistant Producer in The Communication Center

## **FOLLOW-UP QUESTIONNAIRE (Ex-participant)**

Name of Organization	
Your Name	

*Please circle the most appropriate answer.*

### **I. PARTICIPANT'S PRESENT INFORMATION**

1. Is your present position the same as when you were in the JICA training programme?
  - a. Yes
  - b. No
  
2. If your answer is "No", what was the reason? If your answer is "d", please specify the reason.
  - a. Change of position
  - b. Promotion
  - c. Change of job
  - d. Others ( )
  
3. If your answer is "Change of position" or "Promotion", please answer the following questions.
  - a. What was the reason for your change of position or promotion?
  
  - b. What is the content of your present position?
  
4. If your answer is "Change of job", please answer the following questions.
  - a. What was the reason for your change of job?
  
  - b. What is the name of your company?
  
  - c. What is the business content of your company?

d. What is the content of your present position?

## **II. TRAINING RESULTS AND EVALUATION**

1. How was the JICA training programme related to your present job?

- a. Completely related
- b. Mostly related
- c. Partly related
- d. Rarely related
- e. Completely not related

2. How useful is the JICA training programme related to your job?

- a. Very useful
- b. Most likely useful
- c. Reasonably useful
- d. Rarely useful
- e. Completely useless

3. Which skills and knowledge that you acquired in the JICA training programme are utilized in your present job? Please circle the appropriate numbers from the following list.

<b>BASIC THEORY</b>	19. Photography
1. Outline of educational technology	20. Lighting
2. Outline of audio visual education	21. Copy work (photography)
3. Outline of audio visual media	22. Slide film processing
4. Trend of audio visual media	23. Composition
	24. Sound recording
<b>MANAGEMENT</b>	25. Sound editing
5. Analysis of objectives	26. Sound direction
6. Media selection	27. Slide production
7. Research	28. Synchronizing slide with sound
8. Production management	29. Slide duplication
9. Use of Media	30. Slide title making
10. Evaluation	31. Graphic making
	32. Word processing
<b>PRODUCTION PLANNING</b>	33. Computer graphic making
11. Analysis of audience	34. Desk Top Publishing(by Page maker)
12. Establishing and analyzing objectives	35. Video camera operation
13. Research	36. Tape to tape editing
14. Making of synopsis	37. A/B roll editing
15. Script writing	38. Video title making
16. Evaluation of instructional material	39. Track recording
	40. Multi track recording
<b>PRODUCTION TECHNIQUE</b>	41. Video program direction
17. Overhead transparency production	42. Frame recording
18. Overhead transparency presentation	43. Animation production

4. Which subjects that you attended in the JICA training programme are beneficial?  
Please circle the numbers.

**<THE 1ST SOUND SLIDE PRODUCTION COURSE>**

1. Introduction to audio visual media
2. OHP technique and presentation
3. Basic photography
4. Audio program production
5. Sound slide program production (single)



6. Sound slide program production (basic) (by Professor Ieno)
7. Sound slide program production (with two projectors)
8. Basics of video production
9. Final production
10. Observation tour

#### **<THE 2ND SOUND SLIDE PRODUCTION COURSE>**

1. Basic photography
2. OHP technique and presentation
3. Audio program production
4. Slide production practice I (understanding production process)
5. Slide production exercise I (planning and visualization)
6. Production practice II (with two projectors, special effects for improving projection impact)
7. Video production
8. Slide production exercise II (by Professor Ieno)
9. Slide production practice III (with two projectors)
10. Final production
11. Observation tour

#### **<THE 4TH SOUND SLIDE PRODUCTION COURSE>**

1. Introduction to sound slide production
2. Basic visual production
3. Basic audio production
4. Basic overhead transparency production
5. Techniques of special effects
6. Basic script writing and evaluation of teaching materials
7. Program production based on the script
8. Basic video production
9. Sound slide final production
10. Observation tour

#### **<THE 1ST VIDEO PRODUCTION COURSE>**

1. Introduction to video (by Professor Sakamoto)
2. Basic video production for instructional materials: sound
3. Basic video production for instructional materials: visual
4. Video programme production: cut editing
5. Video programme production: shooting and cut editing
6. Video programme production: production exercise I
7. Video programme production: track recording and mix down
8. Video programme production: basic title making
9. Video programme production: production exercise II
10. Basic A/B roll editing: switcher operation
11. Special lecture: effectiveness of A/B roll editing (by Mr. Ito)
12. Actual situation of A/B roll editing: operation training
13. Video programme production: production exercise III
14. Animation production: frame recording
15. Actual situation of animation production (by Ms. Kinoshita)
16. Final production
17. Observation tour

#### **<THE 2ND VIDEO PRODUCTION COURSE>**

1. Introduction to video (by Professor Sakamoto)
2. Basic video production for instructional materials: sound
3. Basic video production for instructional materials: visual
4. Video programme production: cut editing
5. Video programme production: shooting
6. Video programme production: track recording
7. Production exercise I
8. Video programme production: title making
9. Synopsis and its actual situation (by Mr. Yoshida)
10. Production exercise II
11. Video programme production: direction of sounds (by Mr. Mikami)
12. Video programme production: Actual situation of A/B roll editing
13. Production exercise III
14. Special lecture: effectiveness of A/B roll editing (by Mr. Ito)
15. Animation production: frame recording
16. Actual situation of animation production (by Ms. Kinoshita)
17. Final production
18. Observation tour

#### <THE 3RD VIDEO PRODUCTION COURSE>

1. Production skill I: tape to tape editing
2. Production skill I: visual
3. Production skill I: video shooting
4. Production skill II: audio for video
5. Production skill II: track recording
6. Production skill II: exercise I (by Mr. Jyahana)
7. Production skill II: title making
8. Special lecture: direction of sounds (by Mr. Mikami)
9. Production skill II: script making and exercise II (by Mr. Yoshida)
10. Production skill III: A/B roll editing
11. Observation tour
12. Production skill III: exercise III (by Mr. Jyahana)
13. Special lecture: visual editing (by Mr. Ito)
14. Production skill IV: animation and exercise IV (by Ms. Kinoshita)
15. Production skill V: multi track recording
16. Special lecture: planning of educational programs (by Professor Sakamoto)
17. Final production

#### <THE 1ST AUDIO VISUAL TECHNOLOGY COURSE>

1. Knowledge and skills of photograph
2. OHP production, presentation and evaluation
3. Visit a prefectural education center (by Professor Matsuda)
4. Introduction to audio visual media (by Professor Ieno)
5. Knowledge and skills of audio media
6. Basic knowledge of audio visual education (by Doctor Nakano)
7. Knowledge and skills of slide
8. Utilization of media in remote island
9. Basic knowledge of educational technology (by Professor Mizukoshi)
10. Knowledge and skills of video
11. Management of broadcasting station (OTV)
12. Observation tour (Kagoshima Pref. AV Center)

13. Video production
14. Audio visual technology media program (by Professor Kondo)
15. Observation tour (Osaka, Tokyo)
16. Final report writing

**<THE 2ND AUDIO VISUAL TECHNOLOGY COURSE>**

1. Planning and utilization of media (by Mr. Kubota)
2. Outline of AV media (by Professor Sakamoto)
3. Basic DTP techniques: word processor
4. Planning and management of AV media programs (by Professor Ieno)
5. Basic photography
6. Case study I (Kagoshima Pref. AV Center)
7. Video materials
8. Observation tour (Tokyo, Osaka)
9. Slide materials
10. OHP materials
11. Lecture on case study (by Mr. Utsumi)
12. Observation in Okinawa island
13. Case study II (Traffic safety association, Blood Center)

**<THE 3RD AUDIO VISUAL TECHNOLOGY COURSE>**

1. Outline of audio visual education
2. DTP I (basic PC)
3. New trend of AV media (by Mr. Kubota)
4. Planning and evaluation of AV materials (by Professor Ieno)
5. Use of media in school and social education (by Professor Numano)
6. Basic photography
7. Observation: Pref. education center
8. Observation tour (Kagoshima Pref. AV center)
9. DTP II (CG basic)
10. DTP III (basic word processing)
11. Over head projection
12. DTP (Layout and editing)
13. Selection of media (Lecture) (by Mr. Utsumi)
14. Basic audio
15. Sound slide production
16. Basic video production
17. Assigned production
18. Observation tour (Osaka, Tokyo)

5. From your present point of view, please evaluate the training programme that you have participated.

- Course objectives**
- a. Completely appropriate
  - b. Most appropriate
  - c. Reasonably appropriate
  - d. Rarely appropriate
  - e. Completely inappropriate

If your answer is "Rarely appropriate" or "Completely inappropriate", please

specify the reason.

- Training level**
- a. Too high
  - b. To some degree high
  - c. About right
  - d. A little low
  - e. Too low

If your answer is not "About right", please specify the reason.

- Duration**
- a. Too long
  - b. To some degree long
  - c. About right
  - d. A little short
  - e. Too short

If your answer is not "About right", please specify the reason.

- Total number of participants**
- a. Too many
  - b. Slightly too many
  - c. Just right
  - d. A little too few
  - e. Too few

If your answer is not "Just right", please specify the reason.

- Equipment**
- a. Fully adequate
  - b. To some degree adequate
  - c. Fair
  - d. Rarely adequate
  - e. Totally inadequate

If your answer is not "Fair", please specify the reason.

6. If you have any comments or advise concerning the training programme you

have participated, please explain in detail.

### **III. EFFECTIVENESS OF THE JICA TRAINING PROGRAMME AND OTHERS**

1. How did you utilize the skills and knowledge you have acquired at the JICA Centre? You may choose more than one.
  - a. Pass it to my colleagues
  - b. Prepare instructional materials
  - c. Plan a production for instructional materials
  - d. Evaluate the instructional materials
  - e. Utilize in planning the strategy of media for educational training and promotional matters
  - f. Others ( )
  - g. Not utilizing any of the skills and knowledge
  
2. How did you pass on the skills and knowledge to others? You may choose more than one.
  - a. Guide my colleagues while working together
  - b. Guide them through seminars or lectures
  - c. Guide them through workshops
  - d. Prepare textbooks introducing the skills and knowledge
  - e. Prepare instructional materials introducing the skills and knowledge
  - f. Others ( )

3. Which skills and knowledge did you pass on to others? Please circle the appropriate numbers from the following list.

<b>BASIC THEORY</b>	19. Photography
1. Outline of educational technology	20. Lighting
2. Outline of audio visual education	21. Copy work (photography)
3. Outline of audio visual media	22. Slide film processing
4. Trend of audio visual media	23. Composition
	24. Sound recording
<b>MANAGEMENT</b>	25. Sound editing
5. Analysis of objectives	26. Sound direction
6. Media selection	27. Slide production
7. Research	28. Synchronizing slide with sound
8. Production management	29. Slide duplication
9. Use of Media	30. Slide title making
10. Evaluation	31. Graphic making
	32. Word processing
<b>PRODUCTION PLANNING</b>	33. Computer graphic making
11. Analysis of audience	34. Desk Top Publishing(by Page maker)
12. Establishing and analyzing objectives	35. Video camera operation
13. Research	36. Tape to tape editing
14. Making of synopsis	37. A/B roll editing
15. Script writing	38. Video title making
16. Evaluation of instructional material	39. Track recording
	40. Multi track recording
<b>PRODUCTION TECHNIQUE</b>	41. Video program direction
17. Overhead transparency production	42. Frame recording
18. Overhead transparency presentation	43. Animation production

4. What are the reasons for not being able to utilize the skills and knowledge you have acquired? You may choose more than one.
- Lack of equipment
  - Small amount of budget
  - Lack of qualified employees
  - Lack of members
  - Poor management
  - Personnel changes

g. Others ( )

#### IV. FUTURE TRAINING PROGRAMME AND REQUEST

1. Are you satisfied with your present skill level and knowledge? If you are not satisfied, please specify the reason.

- a. Satisfy
- b. Not satisfy

2. How would you evaluate the effectiveness of each media in your organization?  
Circle 5 for most effective and 1 for least effective.

TYPES OF MEDIA					
Print (including Desk Top Publishing)/ Graphics	1	2	3	4	5
Over Head Transparency	1	2	3	4	5
Photography	1	2	3	4	5
Audio	1	2	3	4	5
Sound Slide	1	2	3	4	5
Video	1	2	3	4	5
Computer/ CAI (Computer Assisted Instruction)	1	2	3	4	5
Multi Media/ Hyper Media	1	2	3	4	5

3. Please specify the reason for the items that you marked 5 of the above.

4. Please mark the type of training that you require according to your needs in media production. Circle 5 for highest priority, 1 for least. If it is not needed at all, please leave it blank.

TYPES OF TRAINING		PRIORITY				
INSTRUCTIONAL DESIGN	Planning (lecture and exercise)	1	2	3	4	5
	Script writing (lecture and exercise)	1	2	3	4	5
	Research and evaluation (lecture)	1	2	3	4	5
PRODUCTION TECHNIQUE	Direction	1	2	3	4	5
	Video camera operation	1	2	3	4	5
	Lighting	1	2	3	4	5
	Video editing	1	2	3	4	5
	Digital video effects	1	2	3	4	5
	Animation	1	2	3	4	5
	Sound recording and editing	1	2	3	4	5
	Graphics	1	2	3	4	5
	DTP (Desk Top Publishing)	1	2	3	4	5
	Overhead transparency production	1	2	3	4	5
	Photography	1	2	3	4	5
	Film processing	1	2	3	4	5
	Sound slide production	1	2	3	4	5
	Multimedia/ Hyper media	1	2	3	4	5
	Other ( )	1	2	3	4	5

5. If you have any request for the future training programme, please specify.

6. If you have any request for JICA concerning the aftercare, please specify.

Thank you for your cooperation



## FOLLOW-UP QUESTIONNAIRE (Head of department)

Name of Organization	
Name of Person in Charge	
Title of Position	

### I. DEVELOPMENT OF TECHNICAL SPECIALIST

1. How many members in each position?
  - a. Producer (            persons)
  - b. Cameraman (           persons)
  - c. Engineer (            persons)
  - d. Assistant (            persons)
  
2. Are you satisfied with the skill level and knowledge of the present staff members? If you are not satisfy, please specify the reason.
  - a. Satisfy
  - b. Not satisfy

3. Which training is needed in media production for your staff member? Circle 5 for most needed and 1 for least needed. If not needed at all, please leave it blank.

TYPE OF TRAINING						
INSTRUCTIONAL DESIGN	Planning (lecture and exercise)	1	2	3	4	5
	Script writing (lecture and exercise)	1	2	3	4	5
	Research and evaluation (lecture)	1	2	3	4	5
PRODUCTION TECHNIQUE	Direction	1	2	3	4	5
	Video camera operation	1	2	3	4	5
	Lighting	1	2	3	4	5
	Video editing	1	2	3	4	5
	Digital video effects	1	2	3	4	5
	Animation	1	2	3	4	5
	Sound recording and editing	1	2	3	4	5
	Graphics	1	2	3	4	5
	DIP (Desk Top Publishing)	1	2	3	4	5
	Over head transparency production	1	2	3	4	5
	Photography	1	2	3	4	5
	Film Processing	1	2	3	4	5
	Sound slide production	1	2	3	4	5
	Multimedia/ Hyper media	1	2	3	4	5
Other ( )	1	2	3	4	5	

4. What method is used for training the staffs? You may choose more than one.

- a. Training while working
- b. Participating in programmes prepared by the organization
- c. Participating in programmes prepared by the country
- d. Participating in programmes prepared out of the country
- e. Participating in programmes prepared by international institutions
- f. Participating in JICA programmes
- g. Others ( )
- h. None

5. Please answer the following questions if you have participated in training programmes other than JICA.

- a. Name of Institution ( )
- b. What training course ( )

- c. Training duration ( )
- e. How many staffs ( )

6. Please choose the most favorable training period for your staff.

- a. One month
- b. Two months
- c. Three months
- d. Four months
- e. Five months
- f. Others ( )

7. Please specify the problems that you have for training the staffs.

8. What are your plans for developing the staffs?

## II. PRESENT SITUATION OF DEVELOPING INSTRUCTIONAL MATERIALS

1. What are the purpose for developing the instructional materials?

- a. Teaching materials
- b. Promotions
- c. Researches
- d. Records
- e. Broadcasting
- f. Others ( )

2. Who is your target audience

- a. General public
- b. Specified group
- c. Students or trainees
- d. Others ( )

3. How would you evaluate the effectiveness of each media in your organization?  
Circle 5 for most effective and 1 for least effective.

TYPES OF MEDIA					
Print (including Desk Top Publishing)/ Graphics	1	2	3	4	5
Overhead Transparency	1	2	3	4	5
Photography	1	2	3	4	5
Audio	1	2	3	4	5
Sound Slide	1	2	3	4	5
Video	1	2	3	4	5
Computer/ CAI (Computer Assisted Instruction)	1	2	3	4	5
Multimedia/ Hyper Media	1	2	3	4	5

4. Please specify the reason for the items that you marked 5 of above.
5. Do you conduct any pre-production research?  
 a. Yes  
 b. No
6. Do you conduct any evaluation?  
 a. Yes  
 b. No
7. What methods do you use to find out whether your objective was accomplished or not?

8. Please indicate how many materials you produce.

TYPE OF MEDIA		Percentage (%)		Amount of material produced(per year)		Average length	
		Sample		Sample		Sample	
AUDIO	Use for broadcast	30%		7 programs		1 min.	
	Use for group work						
VIDEO	Use for broadcast	20%		5 programs		1 min.	
	Use for group work	10%		2 programs		15 min.	
STILL PICTURE	Photograph						
	Slide	10%		100 slides			
	Sound slide	10%		3 sets		7 min.	
	Multi-image						
OVER HEAD TRANSPARENCY		5%		10 sheets			
PRINTED MEDIA	Traditional printing	10%		100 copies			
	Text material	5%		20 booklets		10 pages	
	DTP						
MULTI MEDIA	CAI						
	Hyper media						
OTHERS	( )						
Total		100%	100%				

9. Do you use any outside services for your production? If "Yes", please describe the type of service.

- a. Yes Type of service ( )  
 b. No

10. Are the programmes or instructional materials that you have produced in the market for sale?

- a. Yes  
 b. No

11. Please list and describe the type of equipment you have using the form below, or attach a copy of your equipment list to this questionnaire.

NAME OF EQUIPMENT	MODEL	MANUFACTURER	YEAR ACQUIRED	SPONSORING AGENCY	QUANTITY

### **III. PROBLEMS AND PROSPECTS**

1. What problems are you facing now?

2. What types of media are you planning to develop in the near future?

3. Are there any plan in progress now?

4. If you have any request for JICA concerning the training programmes, please specify.

Thank you for your cooperation

フォローアップ調査事前アンケート

I、人材育成

1、あなたの職場に以下の視聴覚スタッフはそれぞれ何人いますか。

- a、プロデューサー ( ) 人
- b、カメラマン ( ) 人
- c、技術者 ( ) 人
- d、アシスタント ( ) 人

2、現在のスタッフの知識や技術レベルに満足していますか。もし満足でなければその理由を書いてください。

- a、満足している。
- b、満足していない。理由 ( )

3、あなたのスタッフにとって、メディア制作をするうえで必要と思われる研修に、5を最優先、1をその対極としてマークしてください。必要がなければそのままです。

研修内容						
教授設計	計画（講義と実習）	1	2	3	4	5
	台本作成（講義と実習）	1	2	3	4	5
	調査／評価（講義）	1	2	3	4	5
制作技術	演出	1	2	3	4	5
	ビデオカメラ操作	1	2	3	4	5
	照明	1	2	3	4	5
	ビデオ編集	1	2	3	4	5
	デジタルビデオ効果	1	2	3	4	5
	アニメーション	1	2	3	4	5
	録音／編集	1	2	3	4	5
	グラフィックデザイン	1	2	3	4	5
	デスクトップパブリッシング	1	2	3	4	5
	OHP技術	1	2	3	4	5
	写真撮影	1	2	3	4	5
	フィルム現像	1	2	3	4	5
	サウンドスライド	1	2	3	4	5
	マルチメディア／ハイパーメディア	1	2	3	4	5
その他 ( )	1	2	3	4	5	

4、どのような方法でスタッフの訓練を行なっていますか。二つ以上選んでもよい。

- a、勤務中に訓練を行なう。
- b、インハウスプログラムに参加させる。
- c、国内のプログラムに参加させる。
- d、外国のプログラムに参加させる。
- e、国際機関のプログラムに参加させる。



- f、JICAのプログラムに参加させる。
  - g、その他 ( )
  - h、行っていない。
- 5、あなたがJICA以外の機関で研修を受けたことがある場合にお答えください。
- a、研修機関の名称 ( )
  - b、研修期間 ( )
  - c、何の研修を受けましたか。( ( ) )
  - d、何人のスタッフが参加しましたか。( )
- 6、スタッフのための希望する研修期間を選んでください。
- a、1ヶ月
  - b、2ヶ月
  - c、3ヶ月
  - d、4ヶ月
  - e、5ヶ月
  - f、その他 ( )
- 7、人材育成がうまくいかない阻害要因がありましたら書いてください。二つ以上でもかまいません。
- 8、今後人材育成のためにどのような計画を立てていますか。

#### II、教材開発の現状

- 1、あなたの教材開発の目的は何ですか。
- a、教材
  - b、普及、広報
  - c、調査研究
  - d、記録
  - e、放送
  - f、その他 ( )
- 2、あなたの視聴者は誰ですか。
- a、不特定の市民、一般大衆等
  - b、特定のターゲットグループ
  - c、生徒、研修生等
  - d、その他 ( )

3、あなたは各メディアの有効性をどのように判断しますか。5を最も有効、1をその対極としてマークしてください。

メディアの種類					
印刷 (デスクトップパブリッシング含む) /グラフィック	1	2	3	4	5
OHP	1	2	3	4	5
写真	1	2	3	4	5
オーディオ	1	2	3	4	5
サウンドスライド	1	2	3	4	5
ビデオ	1	2	3	4	5
コンピューター/CAI (コンピューターアシステッドインストラクション)	1	2	3	4	5
マルチメディア/ハイパーメディア	1	2	3	4	5

4、上記メディアのうち5とマークしたものについてその理由を書いてください。

5、あなたは制作前調査を実施していますか。

- a、はい
- b、いいえ

6、あなたは何らかの形で評価を実施していますか。

- a、はい
- b、いいえ

7、目標が達成されたか否か、どのような方法で判断しますか。

8、制作教材の種類と数量を記入してください。

メディアの種類		制作の割合 (%)		平均年間制作数		長さ (平均)	
		記入例		記入例		記入例	
オーディオ	放送用	30%		7本		1分	
	グループ用						
ビデオ	放送用	20%		5本		1分	
	グループ用	10%		2本		15分	
静止画	写真						
	スライド	10%		100枚			
	サウンドスライド	10%		3本		7分	
	マルチイメージ						
OHP教材		5%		10枚			
印刷	通常印刷	10%		100枚			
	テキスト教材	5%		20冊		10頁	
	DTP						
マルチメディア	CAI						
	ハイパーメディア						
その他							
合計		100%	100%				

9、制作に関し、何らかのかたちで外部委託をしていますか。a (はい) の場合は、その委託形式を説明してください。

- a、はい 委託形式 ( )
- b、いいえ



### III、課題と展望

- 1、現在、業務を遂行するうえで直面している問題は何ですか。二つ以上でもよい。
- 2、今後どのようなメディアを開発する予定ですか。
- 3、もし現在進行中の計画があったら書いてください。二つ以上でもよい。
- 4、今後の研修についてJICAに要望があれば書いてください。

### IV、その他

- 1、協同プログラムはありますか。(二国間、国際機関、NGO、国内機関)  
実績など
- 2、現在どのようなサポートを日本から受けていますか。
  - 1) JICA専門家の派遣  
実績
  - 2) JICAカウンターパートの研修  
実績
  - 3) JICA技術情報支援の活用  
実績
  - 4) 雑誌カタログ、ソフトそのものの送付  
実績、どこから
  - 5) その他のサポート
- 3、視聴覚分野に関し、これからどのようなサポートを日本から受けようと思えますか。

#### 4. アンケート集計結果

##### A. トルコ共和国

(1) 帰国研修員を対象としたアンケート集計結果（アンケート対象者4名、回答者3名、回収率75%）

##### 帰国研修員の属性

Q1. あなたの現在のポストは研修当時と同じですか。

a. はい	3人
b. いいえ	

Q2. もし、Q1のbを選んだ場合は次のうちどれですか。dの場合は書いてください。  
回答結果；該当者なし

Q3. もし、Q2のaかbを選んだ場合は、以下の質問にお答えください。  
回答結果；該当者なし

Q4. もし、2のcを選んだ場合は、以下の質問にお答えください。  
回答結果；該当者なし

##### 研修成果と評価

Q1. 研修内容はあなたの仕事にどれぐらい関係していますか。

a. 全て関係している	2人
b. ほとんど関係している	1人
c. 半分ぐらい関係している	
d. 少し関係している	
e. 全く関係ない	

Q2. あなたの仕事と関係のある研修はどれぐらい役立っていますか。

a. とても役立っている	1人
b. まあまあ役立っている	2人
c. 普通	
d. あまり役立っていない	
e. 全く役立っていない	

Q3. あなたの仕事に活用されている習得した知識や技術はどのようなものがありますか。番号にマークしてください。二つ以上でもよい。

基礎理論	回答	制作技術	回答
1. 教育工学概論	1人	21. コピーワーク (写真)	1人
2. 視聴覚教育概論	1人	22. カラーリバーサルフィルム現像技術	2人
3. 視聴覚メディア概論	3人	23. 撮影構図	3人
4. メディアの動向		24. 録音技術	3人
マネージメント	回答	25. 音声編集技術	3人
5. 目標分析	2人	26. 音声演出技法	2人
6. メディアセレクション	1人	27. スライド制作技術	2人
7. リサーチ	1人	28. シンクロ技術	1人
8. プロダクションマネージメント	2人	29. スライド複写技術	1人
9. メディアの活用	2人	30. スライドタイトル作成技術	1人
10. 評価	1人	31. グラフィック作成技術	1人
教材制作のプランニング	回答	32. ワープロ技術	
11. 視聴者分析	2人	33. CG作成技術	
12. 目標設定及び分析	2人	34. DTP技法 (ページメーカーによる)	
13. リサーチ	1人	35. テープトゥテープ編集技術	3人
14. 構成台本作成	3人	36. ビデオ撮影技術	3人
15. 台本作成	3人	37. ABロール編集技術	3人
16. 教材の評価	2人	38. ビデオタイトル作成技術	3人
制作技術	回答	39. トラックレコーディング技術	3人
17. OHP制作技法		40. ビデオ多重録音技術	3人
18. OHPのプレゼンテーション技法	1人	41. ビデオ番組演出法	3人
19. 写真撮影技術	3人	42. フレームレコーディング技術	3人
20. 照明技術	2人	43. アニメーション作成技術	3人

Q4. あなたが修得した研修科目で有益だと思う科目は何ですか。あなたが参加したコースの科目の番号にマークしてください。二つ以上でもよい。

回答の結果

帰国研修員A (第1回ビデオ制作コースに参加) ; 全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員B (第2回ビデオ制作コースに参加) ; 全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員C (第3回ビデオ制作コースに参加) ; 全ての科目を有益であると評価している。

Q 5. 現在の立場から、あなたが参加した研修コースの以下の項目を評価してください。  
 研修目標 dかeを選んだ場合は理由を書いてください。

a. とても適切	1人
b. まあまあ適切	2人
c. 普通	
d. あまり適切でない	
e. 全然適切でない	

研修レベル c以外を選んだ場合は理由を書いてください。

a. 高すぎる	
b. やや高い	
c. ちょうど良い	2人
d. やや低い	1人
e. 低すぎる	

c以外を選んだ場合は理由；DVE、MA、制作予算見積、ビデオシステム等の研修がなかったから。

研修期間 c以外を選んだ場合は理由を書いてください。

a. 長すぎる	
b. やや長い	1人
c. ちょうど良い	2人
d. やや短い	
e. 短すぎる	

c以外を選んだ場合は理由；いくつかの講義が長い。

研修員人数 c以外を選んだ場合は理由を書いてください。

a. 多すぎる	
b. やや多い	1人
c. ちょうど良い	2人
d. やや少ない	
e. 少なすぎる	

c以外を選んだ場合は理由；人数が多いため、グループ実習で機器の操作をする機会に恵まれない人が出てくる。

研修機材 dかeを選んだ場合は理由を書いてください。

a. とても適切	1人
b. まあまあ適切	2人
c. 普通	
d. あまり適切でない	
e. 全然適切でない	



Q6. もし、あなたが参加した研修コースに対して提案やアドバイスがあれば書いてください。

B; アニメーションコースの設立と照明技術の研修を要望。

C; ビデオ多重録音技術とデジタルビデオ特殊効果技術の研修を要望。

#### 研修効果発現とその阻害要因

Q1. 習得した知識や技術をどのような形で活用しましたか。二つ以上選んでもよい。

a. 他の人に伝えた	
b. 教材を制作した	2人
c. 教材制作を企画した	1人
d. 教材を評価した	
e. 教育訓練及び普及啓蒙のためにメディアの戦略設計に活用した	1人
f. その他	
g. 活用していない	

Q2. どのような方法で習得した知識や技術を他の人に移転しましたか。二つ以上選んでもよい。

a. 仕事を共にして指導	2人
b. セミナーやレクチャーで指導	2人
c. ワークショップで指導	
d. 知識や技術を紹介するテキストを書いた	
e. 知識や技術を紹介する教材を作った	2人
f. その他	
g. 技術移転していない	

Q 3. どのような知識や技術を他の人に移転しましたか。以下の知識や技術の番号にマークしてください。

基礎理論	回答	制作技術	回答
1. 教育工学概論		21. コピーワーク (写真)	
2. 視聴覚教育概論	2人	22. カラーリバーサルフィルム現像技術	
3. 視聴覚メディア概論		23. 撮影構図	1人
4. メディアの動向		24. 録音技術	1人
マネージメント	回答	25. 音声編集技術	1人
5. 目標分析		26. 音声演出技法	
6. メディアセレクション		27. スライド制作技術	
7. リサーチ		28. シンクロ技術	
8. プロダクションマネージメント		29. スライド複写技術	
9. メディアの活用		30. スライドタイトル作成技術	
10. 評価		31. グラフィック作成技術	
教材制作のプランニング	回答	32. ワープロ技術	
11. 視聴者分析		33. CG作成技術	
12. 目標設定及び分析	1人	34. DTP技法 (ページメーカーによる)	
13. リサーチ		35. テープトゥテープ編集技術	2人
14. 構成台本作成		36. ビデオ撮影技術	2人
15. 台本作成		37. ABロール編集技術	2人
16. 教材の評価		38. ビデオタイトル作成技術	1人
制作技術	回答	39. トラックレコーディング技術	1人
17. OHP制作技法	1人	40. ビデオ多重録音技術	1人
18. OHPのプレゼンテーション技法	1人	41. ビデオ番組演出法	
19. 写真撮影技術	1人	42. フレームレコーディング技術	
20. 照明技術	2人	43. アニメーション作成技術	

Q 4. あなたの職場で、習得した知識や技術の効果が発揮できない理由は何ですか。二つ以上選んでもよい。

a. 機材の不足	
b. 少ない予算	1人
c. 有能な人材不足	
d. 人数不足	1人
e. まずい運営	
f. 人事異動	
g. その他	

今後の研修と要望

Q1. 現在の自分の知識や技術レベルに満足していますか。もし満足でなければその理由を書いてください。

a. 満足している	3人
b. 満足していない	

Q2. あなたは仕事のうえで各メディアの有効性をどのように判断しますか。5を最も有効、1をその対極としてマークしてください。

メディアの種類	回答				
	1	2	3	4	5
印刷 (DTP含む) / グラフィック		2人	1人		
OHP		1人	2人		
写真			2人	1人	
オーディオ	2人		1人		
サウンドスライド		3人			
ビデオ					3人
コンピューター / CAI	3人				
マルチメディア / ハイパーメディア	1人				

Q3. 上記メディアのうち5とマークしたものについてその理由を書いてください。

- A ; 一度に多くの視聴者を扱うから。
- B ; 視聴者はテレビ番組に関心があるので、ビデオで放送ができるから。
- C ; 一般大衆が視聴者だから。

Q4. メディア制作のうえで必要と思われる研修に、5を最優先、1をその対極としてマークしてください。必要がなければそのまま結構です。

研修内容		回答				
		1	2	3	4	5
教授設計	計画（講義と実習）				2人	1人
	台本作成（講義と実習）					3人
	調査／評価（講義）				2人	1人
制作技術	演出					3人
	ビデオカメラ操作	1人			2人	
	照明			1人		2人
	ビデオ編集					3人
	デジタルビデオ効果			1人	1人	1人
	アニメーション			1人	1人	1人
	録音／編集				1人	2人
	グラフィックデザイン		1人	2人		
	デスクトップパブリッシング		1人	2人		
	OHP技術		1人	2人		
	写真撮影					3人
	フィルム現像		1人		2人	
	サウンドスライド			1人	2人	
	マルチメディア／ハイパーメディア		1人			
	その他					

Q5. 今後の研修について要望があれば書いてください。  
 B；照明技術の研修をもっと深くやってほしい。  
 C；6ヶ月の研修期間にしてほしい。照明技術の研修をもっと深くやってほしい。  
 ビデオの特設コースを設置してほしい。

Q6. 今後のアフターケアについてJICAに要望があれば書いてください。  
 B；視聴覚技術専門家の派遣。

(2) 訪問機関視聴覚スタッフの上司を対象としたアンケート集計結果（アンケート対象機関3、回答3、回収率100%）

人材育成

1. あなたの職場に以下の視聴覚スタッフはそれぞれ何人いますか。

	保健省コミュニケーションセンター	農業省地方広報課メディアセンター	教育省フィルム・ラジオ・テレビ教育局
プロデューサー	4	6	8
カメラマン	2	5	4
技術者	2		6
アシスタント	4	3	

Q2. 現在のスタッフの知識や技術レベルに満足していますか。もし満足でなければその理由を書いてください。

a. 満足している。	1人
b. 満足していない。	2人

農業省；技術、美術訓練ができない。訓練用器材の不備。  
 教育省；新しい技術が導入されていない。

Q3. あなたのスタッフにとって、メディア制作をするうえで必要と思われる研修に、5を最優先、1をその対極としてマークしてください。必要がなければそのままで結構です。

研修内容		回答				
		1	2	3	4	5
教授設計	計画（講義と実習）				1人	2人
	台本作成（講義と実習）			1人		2人
	調査／評価（講義）			2人		1人
制作技術	演出		1人			2人
	ビデオカメラ操作					3人
	照明					3人
	ビデオ編集				1人	2人
	デジタルビデオ効果				1人	2人
	アニメーション		1人			2人
	録音／編集					3人
	グラフィックデザイン			1人		2人
	デスクトップパブリッシング					2人
	OHP技術					2人
	写真撮影			1人		1人
	フィルム現像	1人		1人		
	サウンドスライド				1人	2人
	マルチメディア／ハイパーメディア				1人	1人
その他						

Q4. どのような方法でスタッフの訓練を行なっていますか。二つ以上選んでもよい。

a. 勤務中に訓練を行なう。	3人
b. インハウスプログラムに参加させる。	1人
c. 国内のプログラムに参加させる。	
d. 外国のプログラムに参加させる。	
e. 国際機関のプログラムに参加させる。	
f. JICAのプログラムに参加させる。	1人
g. その他	
h. 行っていない。	

Q5. あなたたちがJICA以外の機関で研修を受けたことがある場合にお答えください。

- 研修機関の名称（World Bank, National Education Development Project）
- 研修期間（約1ヶ月）
- 何の研修を受けましたか。（ラジオ、テレビ番組制作）
- 何人のスタッフが参加しましたか。（約18名）

Q 6. スタッフのための希望する研修期間を選んでください。

a. 1ヶ月	
b. 2ヶ月	
c. 3ヶ月	2人
d. 4ヶ月	
e. 5ヶ月	1人
f. その他	

Q 7. 人材育成がうまくいかない阻害要因がありましたら書いてください。二つ以上でもかまいません。

保健省；時間調整の難しさ。時間がかかり過ぎる。訓練の予算がない。  
 農業省；時間、教材、指導者の不足。  
 教育省；教材、指導者、予算の不足。

Q 8. 今後人材育成のためにどのような計画を立てていますか。

保健省；オンザジョブトレーニングと専門家の要請。  
 農業省；研修コースの開催と個人研修に参加。  
 教育省；オンザジョブトレーニングとWorld Bankの研修参加等。

#### 教材開発の現状

Q 1. あなたの教材開発の目的は何ですか。

a. 教材	3人
b. 普及、広報	1人
c. 調査研究	
d. 記録	
e. 放送	3人
f. その他	

Q 2. あなたの視聴者は誰ですか。

a. 不特定の市民、一般大衆等	2人
b. 特定のターゲットグループ	2人
c. 生徒、研修生等	1人
d. その他	

Q 3. あなたは各メディアの有効性をどのように判断しますか。5を最も有効、1をその対極としてマークしてください。

メディアの種類	回答				
	1	2	3	4	5
印刷 (DTP含む) /グラフィック					3人
OHP	2人			1人	
写真			1人		2人
オーディオ	1人			1人	1人
サウンドスライド	1人		1人	1人	
ビデオ					3人
コンピューター/CAI			2人	1人	
マルチメディア/ハイパーメディア	1人				2人

Q 4. 上記メディアのうち5とマークしたものについてその理由を書いてください。  
 保健省；ビデオは、一般大衆のために使われる。ほとんどのスタッフは、ビデオ制作の訓練を受けている。マルチメディアは、メッセージを特定のグループにうまく伝える。写真は、イメージをわかりやすくする。  
 農業省；月刊誌を出版しているから。他の農業機関のために視聴覚技術による普及活動を行なっているから。農業のテレビ教育番組を制作しているから。

Q 5. あなたは制作前調査を実施していますか。

a. はい	3人
b. いいえ	

Q 6. あなたは何らかの形で評価を実施していますか。

a. はい	3人
b. いいえ	

Q 7. 目標が達成されたか否か、どのような方法で判断しますか。

保健省；アンケートによる調査。  
 農業省；視察、調査。  
 教育省；テスト、調査。



Q 8. 制作教材の種類と数量を記入してください。

メディアの種類		機関名	制作の割合(%)	平均年間制作数	長さ(平均)
オーディオ	放送用	教育省	35%	400本	15~20分
ビデオ	放送用	保健省	95%	40本	6分
		農業省	67%	57本	15分
		教育省	30%	350本	15~20分
	グループ用	農業省	3%	2本	20分
静止画	写真	農業省	3.5%	2000枚	
		教育省	1%		
	スライド	農業省	1%	600枚	
		教育省	1%		
	マルチイメージ	農業省	0.5%		
印刷	通常印刷	農業省	15%	20回	100枚
	テキスト教材	保健省	5%		30ページ
		農業省	10%	50回	32ページ
		教育省	33%		100ページ

Q 9. 制作に関し、何らかのかたちで外部委託をしていますか。a (はい) の場合は、その委託形式を説明してください。

a. はい	3人
b. いいえ	

保健省；俳優、ナレーター、スタジオセット、音楽、照明。

農業省；ナレーター、音楽、カラースライド現像。

教育省；放送業務

Q 10. 制作した教材や番組を販売していますか。

a. はい	1人(教育省；学生に販売)
b. いいえ	2人

(3) JICAプロジェクトの日本人視聴覚技術専門家を対象としたアンケート集計結果(アンケート対象プロジェクト1、回答1、回収率100%)

#### 1. 人材育成

Q 1. あなたの職場に以下の視聴覚スタッフはそれぞれ何人いますか。  
トルコ人口教育促進プロジェクト；12人

Q 2. 現在のスタッフの知識や技術レベルに満足していますか。もし満足でなければその理由を書いてください。  
回答；満足していない。  
理由；知識や技術レベルが供与機材に比較して低い。

Q3. あなたのスタッフにとって、メディア制作をするうえで必要と思われる研修に、5を最優先、1をその対極としてマークしてください。必要がなければそのまま結構です。

研修内容		回答				
		1	2	3	4	5
教授設計	計画（講義と実習）				○	
	台本作成（講義と実習）				○	
	調査／評価（講義）	○				
制作技術	演出					○
	ビデオカメラ操作			○		
	照明				○	
	ビデオ編集			○		
	デジタルビデオ効果				○	
	アニメーション			○		
	録音／編集				○	
	グラフィックデザイン					○
	デスクトップパブリッシング					○
	OHP技術		○			
	写真撮影				○	
	フィルム現像	○				
	サウンドスライド		○			
	マルチメディア／ハイパーメディア	○				
その他（撮影計画作成）				○		

Q 4. どのような方法でスタッフの訓練を行なっていますか。二つ以上選んでもよい。

a. 勤務中に訓練を行なう。	<input type="radio"/>
b. インハウスプログラムに参加させる。	<input type="radio"/>
c. 国内のプログラムに参加させる。	
d. 外国のプログラムに参加させる。	
e. 国際機関のプログラムに参加させる。	
f. JICAのプログラムに参加させる。	<input type="radio"/>
g. その他	
h. 行なっていない。	

Q 5. あなたたちがJICA以外の機関で研修を受けたことがある場合にお答えください。  
受けたことがない。

Q 6. スタッフのための希望する研修期間を選んでください。

a. 1ヶ月	
b. 2ヶ月	
c. 3ヶ月	
d. 4ヶ月	
e. 5ヶ月	
f. その他（5ヶ月以上1年未満）	<input type="radio"/>

Q 7. 人材育成がうまくいかない阻害要因がありましたら書いてください。二つ以上でもかまいません。

予算、トレーナー（専門家）、時間の不足。

Q 8. 今後人材育成のためにどのような計画を立てていますか。

オンザショプトレーニング、テキストの開発、インサービストレーニングの実施等。

#### 教材開発の現状

Q 1. あなたの教材開発の目的は何ですか。

a. 教材	
b. 普及、広報	<input type="radio"/>
c. 調査研究	
d. 記録	
e. 放送	
f. その他	

Q2. あなたの視聴者は誰ですか。

a. 不特定の市民、一般大衆等	<input type="radio"/>
b. 特定のターゲットグループ	<input type="radio"/>
c. 生徒、研修生等	
d. その他	

Q3. あなたは各メディアの有効性をどのように判断しますか。5を最も有効、1をその対極としてマークしてください。

メディアの種類	回答				
	1	2	3	4	5
印刷 (DTP含む) /グラフィック					<input type="radio"/>
OHP			<input type="radio"/>		
写真				<input type="radio"/>	
オーディオ			<input type="radio"/>		
サウンドスライド			<input type="radio"/>		
ビデオ					<input type="radio"/>
コンピューター/CAI	<input type="radio"/>				
マルチメディア/ハイパーメディア	<input type="radio"/>				

Q4. 上記メディアのうち5とマークしたものについてその理由を書いてください。  
調査結果から、一般視聴者はビデオ、助産婦、保健教育官はテキスト教材を望んでいる。

Q5. あなたは制作前調査を実施していますか。

a. はい	
b. いいえ	<input type="radio"/>

Q6. あなたは何らかの形で評価を実施していますか。

a. はい	
b. いいえ	<input type="radio"/>

Q7. 目標が達成されたか否か、どのような方法で判断しますか。  
聞き取り調査。

Q 8. 制作教材の種類と数量を記入してください。

メディアの種類		制作の割合 (%)	平均年間制作数	長さ (平均)
ビデオ	放送用	50%	25本	8分
	グループ用	10%	3本	
印刷	テキスト教材	30%	5冊	20ページ

Q 9. 制作に関し、何らかのかたちで外部委託をしていますか。a (はい) の場合は、その委託形式を説明してください。

a. はい	<input type="radio"/>
b. いいえ	

外注；俳優、ナレーター、アニメ、イラスト。

### 課題と展望

Q 1. 現在、業務を遂行するうえで直面している問題は何ですか。二つ以上でもよい。  
時間、専門家の不足。

Q 2. 今後どのようなメディアを開発する予定ですか。  
スライドメディア等。

Q 3. もし現在進行中の計画があったら書いてください。二つ以上でもよい。  
なし。

Q 4. 今後の研修についてJICAに要望があれば書いてください。  
研修コースを多彩にしてほしい。(数を増やしてほしい。)  
個別研修員のための集団コース(ディレクター養成)が欲しい。

### その他

Q 1. 共同プログラムはありますか。実績など。(二国間、国際機関、NGO、国内機関)  
UNFPA、UNICEFとの共同制作、テレビ放映用番組、9本。

Q 2. 現在どのようなサポートを日本から受けていますか。

JICA専門家の派遣実績

1988～1991年 3名。

1991～1993年 4名。

JICAカウンターパートの研修実績

15名の研修員受け入れ。(医者等も含む)

JICA技術情報支援の活用実績

特になし。

雑誌カタログ、ソフトそのものの送付。実績及び送付先  
メーカー、所属先(JICE)。

その他のサポート

なし。

Q 3. 聴覚分野に関し、これからどのようなサポートを日本から受けようと思いますか。  
 専門家派遣、機材カタログの送付、参考図書の送付。

B. ケニア共和国

(1) 帰国研修員を対象としたアンケート集計結果（アンケート対象者10名、回答者8名、回収率80%）

帰国研修員の属性

Q 1. あなたの現在のポストは研修当時と同じですか。

a. はい	6人
b. いいえ	2人

Q 2. もし、Q 1のbを選んだ場合は次のうちどれですか。dの場合は書いてください。

a. 異動	1人
b. 昇進	1人
c. 転職	
d. その他	

Q 3. もし、Q 2のaかbを選んだ場合は、以下の質問にお答えください。

異動の理由；ビデオ制作技術を習得したから。

現在の仕事内容；指導訓練（講師）。

昇進の理由；子供、女性番組の監督をするためと、チーフプロデューサーに運営と技術上の援助をするため。

現在の仕事内容；番組の提案書作成、事前調査の開発、制作機材の調達、番組評価会議の運営。

Q 4. もし、Q 2のcを選んだ場合は、以下の質問にお答えください。

回答結果；該当者なし

研修成果と評価

Q 1. 研修内容はあなたの仕事にどれぐらい関係していますか。

a. 全て関係している	6人
b. ほとんど関係している	2人
c. 半分ぐらい関係している	
d. 少し関係している	
e. 全く関係ない	

Q 2. あなたの仕事と関係のある研修はどれくらい役立っていますか。

a. とても役立っている	8人
b. まあまあ役立っている	
c. 普通	
d. あまり役立っていない	
e. 全く役立っていない	

Q 3. あなたの仕事に活用されている習得した知識や技術はどのようなものがありますか。番号にマークしてください。二つ以上でもよい。

基礎理論	回答	制作技術	回答
1. 教育工学概論	3人	21. コピーワーク (写真)	1人
2. 視聴覚教育概論	3人	22. カラーリバーサルフィルム現像技術	1人
3. 視聴覚メディア概論	3人	23. 撮影構図	3人
4. メディアの動向	3人	24. 録音技術	6人
マネージメント	回答	25. 音声編集技術	3人
5. 目標分析	3人	26. 音声演出技法	3人
6. メディアセレクション	4人	27. スライド制作技術	1人
7. リサーチ	4人	28. シンクロ技術	1人
8. プロダクションマネージメント	3人	29. スライド複写技術	
9. メディアの活用	4人	30. スライドタイトル作成技術	
10. 評価	4人	31. グラフィック作成技術	1人
教材制作のプランニング	回答	32. ワープロ技術	2人
11. 視聴者分析	4人	33. CG作成技術	1人
12. 目標設定及び分析	5人	34. DTP技法 (ページメーカーによる)	1人
13. リサーチ	5人	35. テープトゥテープ編集技術	4人
14. 構成台本作成	3人	36. ビデオ撮影技術	4人
15. 台本作成	6人	37. ABロール編集技術	5人
16. 教材の評価	3人	38. ビデオタイトル作成技術	3人
制作技術	回答	39. トラックレコーディング技術	2人
17. OHP制作技法	1人	40. ビデオ多重録音技術	2人
18. OHPのプレゼンテーション技法	1人	41. ビデオ番組演出法	4人
19. 写真撮影技術	5人	42. フレームレコーディング技術	1人
20. 照明技術	4人	43. アニメーション作成技術	1人

Q 4. あなたが修得した研修科目で有益だと思う科目は何ですか。あなたが参加したコースの科目の番号にマークしてください。二つ以上でもよい。

回答の結果；

帰国研修員A (第1回サウンドスライド制作コースに参加) ; 「OHP教材手法」以外の全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員B（第4回サウンドスライド制作コースに参加）；全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員C（第1回ビデオ制作コースに参加）；全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員D（第2回ビデオ制作コースに参加）；全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員E（第2回ビデオ制作コースに参加）；「ビデオ概論（坂元教授）」「ビデオ番組制作：トラックレコーディング」「構成台本の作成とその実際（吉田専門員）」「課題制作演習ⅠⅠ」「ビデオ番組制作：音声の演出（見上氏）」「ビデオ番組制作：ABロール編集」「特別講義：ABロール編集の時間処理（伊藤氏）」「最終課題制作」の科目は有益であると評価しているが、残りの科目はレベルが低いと評価している。

帰国研修員F（第3回ビデオ制作コースに参加）；全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員G（第2回視聴覚技術コースに参加）；「写真の基礎技術」と「スライド教材」以外の全ての科目を有益であると評価している。

帰国研修員H（第3回視聴覚技術コースに参加）；「視聴覚技術概論」と「視聴覚メディアの動向（久保田氏）」以外の全ての科目を有益であると評価している。

Q5. 現在の立場から、あなたが参加した研修コースの以下の項目を評価してください。

研修目標 dかeを選んだ場合は理由を書いてください。

a. とても適切	3人
b. まあまあ適切	5人
c. 普通	
d. あまり適切でない	
e. 全然適切でない	

研修レベル c以外を選んだ場合は理由を書いてください。

a. 高すぎる	
b. やや高い	2人
c. ちょうど良い	6人
d. やや低い	
e. 低すぎる	

c以外を選んだ場合は理由；DTPの経験がないので、時間が短い。

研修期間 c以外を選んだ場合は理由を書いてください。

a. 長すぎる	
b. やや長い	
c. ちょうど良い	6人
d. やや短い	2人
e. 短すぎる	

c以外を選んだ場合は理由；コースの内容からして2週間増やすべき。

研修員の知識レベルには違いがあるので、もう少し期間を長くすべき。